

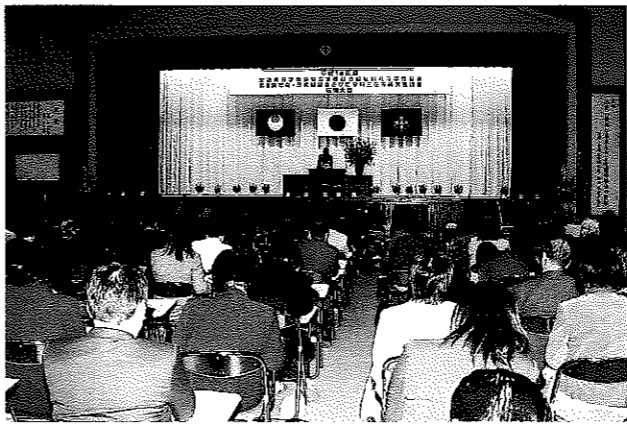
平成14年度(2002)

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
第8回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会

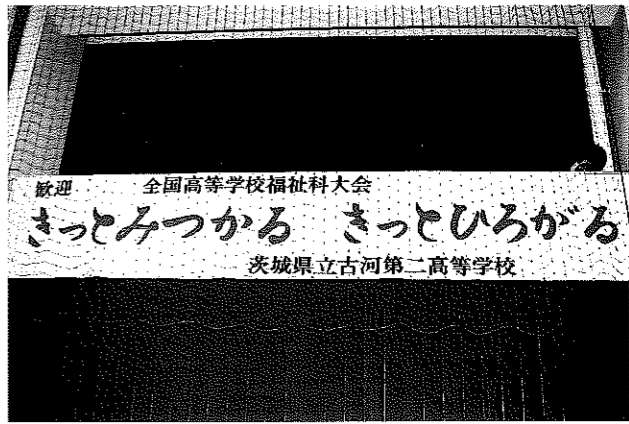
茨城大会報告



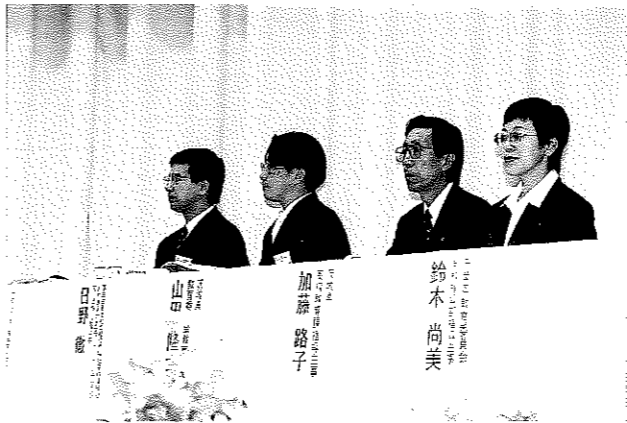
開 会 行 事



会場の様子



大会スローガン



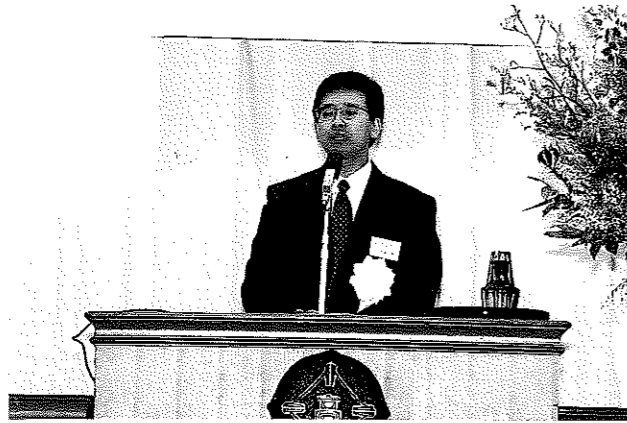
来 賓



茨城県教育委員会教育次長 山田 隆 士



全国高等学校長協会家庭部会理事長
今 濱 勝 久



文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官
矢幅清司



厚生労働省社会・援護局福祉基盤課
福祉人材確保対策室メンバー企画係長
日野 徹



全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長
高橋照夫



茨城県立古河第二高等学校長
植野孝雄

講演会

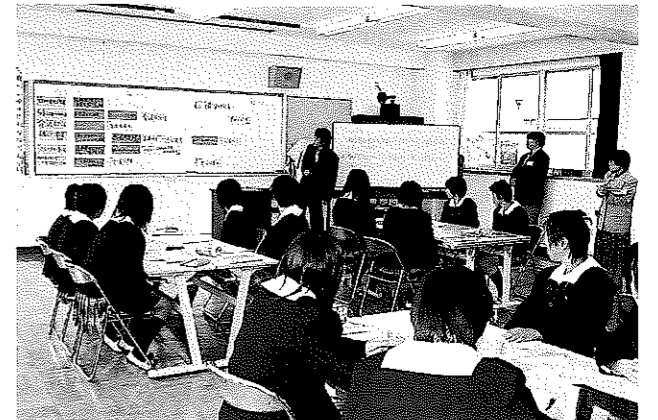


金城大学副学長 井上 千津子

公開授業



基礎介護
(1学年教養福祉科)



社会福祉基礎
(2学年普通科)



社会福祉実習
(2学年教養福祉科)



社会福祉実習
(3学年教養福祉科)

ステージ発表



手話
(2学年教養福祉科)



エプロンシアター
(栃木県立真岡北陵高等学校)

学科設置校分科会



学科設置校分科会の様子



川崎市立川崎高等学校
岡 多枝子 教諭



岡山県立
倉敷中央高等学校
本 多 淳 宏 教諭



和歌山県立
有田中央高等学校
名 原 伸 子 教諭

研究協議会



宮崎県立高原高等学校
石 川 加 奈 恵 教諭

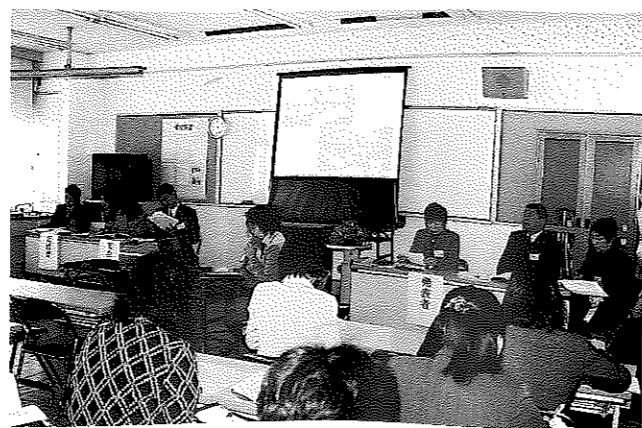


広島県立吉田高等学校
井 上 智 恵 教諭



岡山県美作高等学校
竹 田 吉 彦 教諭

コース・系列等設置校分科会



コース・系列等設置校分科会の様子

目 次

平成14年度茨城大会の概要	1
来賓・主催者・主管校代表者	2
あいさつ 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 高橋 照夫	3
理事会・学科主任代表者会議	4
開会行事	5
基調講演 厚生労働省からの報告	6
公開授業	7
講演会「21世紀に求められる介護福祉士の役割」	
講師 金城大学副学長 井上 千津子 氏	17
校長部会・総会	20
平成13年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業報告	21
平成13年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計決算書	22
平成14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業計画	23
平成14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計予算書	24
校長部会・研究協議会	25
主任等の部会・研究協議会	
学科設置校分科会	26
コース・系列等設置校分科会	35
全体報告会	44
文部科学省指導講評	46
閉会行事	48
茨城大会を終えて	49
大会を振り返って	49
資料	
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約	50
平成13～14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員・組織分担表	51
平成14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校について	52
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会総会・研究協議会	
並びに学科主任等研究協議会会場地区一覧表	53
全国大会主任等研究協議会分科会分担	54
平成14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧	55
あとがき（諸連絡）	67

平成14年度 茨城大会の概要

- 1 研究主題 **変革の時代に求められる魅力ある高校福祉教育**
 -福祉の未来を担う人間性豊かな人材を育てるために-
- 2 期 日 平成14年10月30日(水)～11月1日(金)
- 3 会 場 茨城県立古河第二高等学校
 古河市幸町19-18 TEL 0280-32-0444
 あすなろ会館
 古河市松並2-18-20 TEL 0280-31-2111
- 4 主催等
 主催 全国高等学校長協会家庭部会
 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
 共催 茨城県教育委員会
 後援 茨城県高等学校長協会家庭部会
 茨城県高等学校教育研究会家庭部
 茨城県産業教育振興会
 古河市教育委員会
 主管 茨城県立古河第二高等学校

5 日 程
 10月30日(水) <役員会> 会場：古河第二高等学校
 15:00 15:30 17:00

受	理 事 会
付	学科主任代表者会議

10月31日(木) <大会第1日目> 会場：古河第二高等学校 教育懇談会：あすなろ会館
 9:00 9:30 10:00 10:45 10:55 11:45 12:45 14:15 14:30 17:00 18:00 20:00

受	開	基	休	公	昼	休	校	移	教
付	会	調	憩	開	食	憩	長	動	懇
	行	講		授			会		談
	事	演		業			総		育
							会		会
							・		
							研		
							究		
							協		
							議		
							会		
							主		
							任		
							等		
							研		
							究		
							協		
							議		
							会		

11月 1日(金) <大会第2日目> 会場：古河第二高等学校
 9:30 10:50 11:00 11:50 12:20 13:00 15:30

全体報告会	休	文部科学省	閉	解散	教育視察
	憩	指導講評	会		
			行		
			事		

6 参加校(者) 118校(207人)

来賓・主催者・主管校代表者

- 1 来 賓
 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢 幅 清 司
 国立教育政策研究所教育課程調査官
 厚生労働省社会援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 日 野 徹
 マンパワー企画係長 資格・試験係長
 茨城県教育委員会教育次長 山 田 隆 士
 茨城県高校教育課課長 谷 島 英 一
 千葉県教育委員会学校指導部指導主事 鈴 木 尚 美
 茨城県教育庁高校教育課指導主事 加 藤 路 子
- 2 主 催 者
 全国高等学校長協会家庭部会理事長 今 濱 勝 久
 全国高等学校長協会家庭部会 高 橋 照 夫
 福祉科高等学校長会会長
 全国高等学校長協会家庭部会事務局長 小 島 和 雄
 全国高等学校長協会家庭部会事務局次長 木 場 耕 平
 茨城県高等学校長協会家庭部会長 齋 藤 靖 夫
- 3 主管校代表者
 茨城県立古河第二高等学校長 植 野 孝 雄

あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会 会長
高橋 照夫

【平成14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会第8回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会】を茨城県立古河第二高等学校を主会場として開催するに際しまして、公務ご多忙の折りにもかかわらず、厚生労働省社会援護局福祉基盤課人材確保対策室マンパワー企画係長・資格試験係長日野徹様、文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官矢幅清司様、茨城県教育委員会から教育次長山田隆士様、指導主事の先生方のご臨席を頂き、ご指導頂きますことに心から感謝申し上げます。また、全国高等学校長協会家庭部会から今濱理事長様、小島事務局長様、木場事務局次長様にもご出席頂き、更に、全国各地から、高等学校で福祉教育に携わっていらっしゃる校長先生、学科主任の先生多数のご出席を頂き開催できますことは、主催者としてこの上ない感激であります。

この大会の開催に対して、茨城県立古河第二高等学校が主管校として会場の全面的なご提供と運営に多大なご協力とご尽力をくださいました。そして、ご出席頂く皆さんに、ご不便をお掛けしないということを常にご配慮されて準備をされてきました本校の植野校長先生をはじめ、先生方及び開催県茨城県の諸先生に、心から感謝を申し上げます。

さて、本大会は、来年度から始まります「新学習指導要領」に新教科として『福祉』が設置されるという時に当たり、研究主題を「変革の時代に求められる魅力ある高校福祉教育」、副題を「福祉の未来を担う人間性豊かな人材を育てるために」と定めて開催することといたしました。まさに時宜にあったものと考えます。

一昨年度から、文部科学省で行って来ました『現職教職員等講習会』は、本年度の3回目をもって終了しました。また、介護福祉士国家試験は、昨年度で14回を重ねましたが、厚生労働省の話しですと「質の向上に努めるようにしたい。」文部科学省の話しですと「合格率が昨年度よりも減少した。」と分析した上で、更なる指導の必要性を挙げています。

更には、文部科学省矢幅調査官様の話のよう

に、新学習指導要領の改訂に伴う『産業教育施設・設備基準改訂』も福祉に関しては大変喜ばしい改訂をしていただき、今後各学校で施設・設備の充実が図られることと思います。また、福祉に関する教科書作成でも、矢幅調査官様のご尽力で「福祉情報処理」については、平成15年度に使用できるよう、福祉科校長会としてただいま作成中という状況にあります。

ところで、本年度、本校長会の加盟校は、昨年度よりも増加して、189校になりました。これは、各都道府県で高校改革を推進する中で学科改編の柱として、総合学科、単位制高校などの導入や教育課程の編成にあたって、高齢化の時代に入り、福祉に携わる人の需要が叫ばれていることから、福祉に関わる選択、コース・系等を設置して、その人材の育成に努めていることと考えられます。お互いに情報交換や連携を密にして、厚生労働省、文部科学省、全国高等学校長協会家庭部会などのご指導を頂きながら、福祉教育の充実を図っていきたく願うものであります。

福祉は、どんな小さなことであっても、人が人のために手を貸す、力を貸すことにあります。ボランティア・奉仕と言う言葉を聞きますが、この言葉は、福祉にのみ使われる言葉ではないと思います。本年8月にここ茨城県で開催されました「全国高等学校総合体育大会」では、茨城県内の高校生が1人1役として大会の開催にボランティアとして関わったという話を聞きました。また、過日、愛媛県立新居浜工業高校の生徒が、韓国へ行って、車椅子修理のボランティアをしたという放送をみました。人が人のために動くことを積み重ね、教え子が福祉の精神を持ち、福祉関係に携わることになれば、私たちにとってこの上ない喜びでありましょう。そのためにも、福祉の未来を担う人材を育成することが私たちの責務だと考えます。

終りに、重ねて、本大会の開催にご尽力くださいました茨城県立古河第二高等学校の植野校長先生はじめ関係各位に心から感謝を申し上げ、挨拶と致します。

理事会

平成14年10月30日(水) 15:30~17:30
古河第二高等学校 看護室
司会 安部 真彦
(大分県立野津高等学校教頭)

- 挨拶
・全国高等学校長協会家庭部会理事長 今濱 勝久
・文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司
・全国高等学校長協会家庭部会事務局長 小島 和雄
・全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 高橋 照夫
・福祉科高等学校長会全国大会主管校校長 植野 孝雄
- 報告事項
(1) 平成14年度役員の確認 (高橋会長)
(2) 平成13年度事業及び決算報告 (事務局)
(3) 平成13年度監査報告 (監査)
(4) 平成14年度事業計画・会計予算 (事務局)
(5) 13校増、3校脱会、189校加盟 (事務局)
(6) その他
・「福祉演習」事例集を研修部で年内発刊
・施設設備や進路状況に関するアンケートを調査統計部で実施予定
・広報誌は12月上旬ホームページに掲載
- 協議事項
(1) 平成14年度茨城大会の運営について (茨城県立古河第二高等学校長)
(2) 平成15年度全国大会について
主管校 大分県立野津高等学校
開催日 平成15年10月29日~31日 (野津高等学校教頭)
(3) 平成16年度全国大会について
主管校 徳島県立小松島西高等学校
開催日 未定 (四国地区理事)
(4) 平成15年度第1回役員会について
平成15年5月29日実施予定 (高橋会長)
(5) 福祉科高等学校長会の所属について
今年度総会での協議事項 (高橋会長)
(6) その他
・全国大会用備品の引継ぎについて
・報告書刊行について

学科主任代表者会議

平成14年10月30日(水) 15:30~17:30
古河第二高等学校 福祉多目的教室
司会 南 富美子
(大分県立野津高等学校教諭)

- 開会のことば (野津高 南)
- 報告事項
(1) 茨城大会について (古河二高 萩原)
(2) 平成14年度全国福祉科校長会加盟校名簿について (事務局 福原)
加盟校189校、13校増加、学科改編のために脱会3校
(3) 全国産業教育フェアについて
11月1日~11月3日まで岩手県で開催
村田高校(宮城)、藤岡北高校(群馬)
田鶴浜高校(石川)の3校が展示 (事務局 福原)
- 協議事項
(1) 研修部より
・実践事例集をCD-Rにまとめ、来年度各校に配布予定 (函館大妻 野村)
(2) 調査統計部より
・全国基礎調査(進路状況や離職率の調査)福祉に関する学科のある学校153校に調査依頼(回収率81.7%) (長浜高 水口)
(3) 広報部報告より
・福祉系高校だより
12月中にホームページに掲載予定 (吉田高 松永)
(4) 平成15年度学科主任代表者会議
平成15年5月29日(木)予定
校長・主任が合同で会議を行う方向で検討。新組織が発足する。(事務局 福原)
(5) 茨城大会報告書について
報告書を早めに作成(2月末刊行予定)
全国大会への要望、全国学科主任代表者の各活動への要望等のアンケートを実施する。(事務局 福原)
- その他
・全国大会での発表校について
選出は分担表に基づき、早めに決定する。
- 閉会のことば (野津高 南)

開 会 行 事

平成14年10月31日(木) 9:30~10:00
茨城県立古河第二高等学校 体育館2階 アリーナ
司会 一ノ瀬 忠雄(群馬県立新田暁高等学校長)

1 開会のことば

栃木県立塩谷高等学校長

岸野 稔

2 主催者あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会理事長

今濱 勝久

平成15年度より、教科「福祉」がその第一歩を踏み出すことになる。「福祉」とは、誰もが幸福を求める機会や条件を平等に得るものである。新学習指導要領においては、家庭科として衣食住を中心としながらも保育・福祉等ヒューマンサービスに重点を置かれたものとなっており、児童福祉、高齢者福祉の分野においてその内容を深化させ、時間も十分にとるように配当されている。このことは、高齢社会を迎えて国民的教養として、福祉マインド、保育マインドを全国民に身につけて欲しいとのねらいからである。しかしながら、福祉教育においても課題は山積している。人材の問題、施設予算の問題、また実習場所の問題、最終的には出口指導の問題等多くの課題を抱えている。目の前の一つ一つの課題を着実に解決する努力が福祉教育を更なる発展へと導くものであり、全国の福祉教育に関わる先生方の熱意ある研究を期待している。

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長

高橋 照夫

各学校現場では福祉教諭の免許を取得された先生方が福祉教育の指導に当たっていただいているが、福祉関係の仕事に対する熱い思いを持っている高校生の指導に一層の努力をお願いしたい。介護福祉士国家試験に関しては今後もきめ細かいご指導をお願いし、合格率の上昇と介護福祉士の質の向上に努めていただきたい。学習指導要領改訂に伴い、各学校で施設設備の充実が図れ、福祉に関する教科書の作成では4科目が選定教科書として出版される予定である。本大会においては福祉の未来を培う人材の育成や新教科「福祉」の指導に関して十分なる研究協議をお願いしたい。

3 来賓祝辞

文部科学省初等中等教育局

参事官付教科調査官 矢幅 清司

社会全体が変わろうとしている今、教育も変革期にあり、福祉教育が取り上げられている。教科「福祉」も創設され、来年度より実施されるが、これは福祉サービスの向上を願う社会の要請とそれに伴う人権教育の必要性、そして人間教育を土台とした本来の教育の在り方を問うものではないだろうか。この教科「福祉」を実践するために教員養成、施設設備、継続的な研修を今後とも文部科学省として、整備を進めたいと考えている。この大会が福祉教育の新たな道しるべとなることを祈念している。これからもより良い福祉教育を実践していただくようお願いしたい。

茨城県教育委員会教育次長

山田 隆士

日頃から、福祉教育の充実、発展のために多大なご尽力をいただき、厚く感謝を申し上げる。福祉教育においては介護を必要とする高齢者の自立を支援する能力や技能をもった人材の育成の必要性や、豊かな人間性を育む教育の重要性から、福祉を深く学習する学科等が設置されてきた。また高齢者や障害のある人々へ、よりきめ細かな介護サービスに対応できる専門的な知識や技術を有する人材の育成を確保する必要性から、新教科「福祉」が創設された。本大会では今後の福祉教育の充実、発展にむけての十分なお討議と情報交換がなされ、実り多い大会となるよう、ご期待を申し上げます。

4 来賓紹介

茨城県立大子第二高等学校長

松本 弘明

5 主管校挨拶

茨城県立古河第二高等学校長

植野 孝雄

6 閉会のことば

神奈川県立高浜高等学校長

伊藤 伸子

基 調 講 演

平成14年10月31日(木) 10:10~10:45
茨城県古河第二高等学校 体育館2階 アリーナ
厚生労働省社会・援護局福祉基盤課
福祉人材確保対策室マンパワー企画係長 日野 徹

1 介護福祉士養成の現状

近年の急速な少子・高齢化により、国民の福祉に対するニーズは多様化し、質の高いサービスが求められている。このため、厚生労働省では、高い職業倫理を持った専門職にふさわしい人材の育成に努めている。

(1) 養成施設開設の動向

養成の主流は専門学校から大学・短大(29%)へと移行している。大学・短大は少子化による生き残り作戦として、人気が高い福祉分野の課程を増設している。

(2) 国家試験合格者の動向

国試の受験者は、平成13・14年実施の試験ともに伸びが鈍化している。また、合格者は増加しているが、合格率は平成14年41.4%と長期的に減少している。これは、試験範囲の拡大、質の高い設問の増加によるものと考えられる。

(3) 登録・就労の動向

ア 登録者の状況

介護福祉士は登録して初めて資格が認定されるが、登録者は着実に増加している。平成14年8月における登録者は30万人であるが、国試合格者はそのうちの6割、残りの4割は養成所卒業者である。日本介護福祉士会によると、登録者の90%は女性で10%が男性、20歳代の登録者は養成所卒業生、40~50歳代は国試合格者であるという。登録者の学歴は徐々に上がりつつある。

イ 就労状況

就労状況は福祉系が7割を占め、登録者の8割が本来の福祉業務を行っている。介護職の3割はケアマネジャーの資格を持っており、介護保険制度に積極的に参加している。

2 求められる介護福祉士像

平成12年に介護保険制度が導入されてから、介護福祉士は行政関与型からサービス主体型へと移行している。平成15年4月からは障害者福祉にも支援制度が導入されるという状況の中、要介護者はサービスの選択・自己決定・自己責任権を持つことができるようになり、客体から主体へ変化しつつある。福祉サービスは人的サービスであり、福祉に携わる人材の質の向上が急務であり、また即戦力としても求められている。厚生労働省では「期待される介護福祉士像」として、次の5点を挙げている。

①感性豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、意志疎通をうまく行って介護を行う人との信頼関係を築くことができること。

②要介護者等の状況を判断し、それに応じた

介護を計画的に実施し、その結果を自ら評価できること。

③介護を必要とする人の生命や人権を尊重し、自立支援の観点から介護できること。

④他の保健医療福祉従事者等と連携し、協働して介護できること。

⑤資質の向上を図るために自己研鑽とともに後進の育成に努めること。

3 介護福祉士養成の課題と責務

量的確保から質的向上へ

(1) 国家試験の改革

介護を取り巻く環境の変化により、国家試験の筆記は総出題数が100題から120題へと増加している。その内容は、介護保険導入、ケアマネジャーについて、社会理念としての人権、コミュニケーションスキル等が加えられた。実技は安全安楽を重視している。出題内容や合格基準は公表済みであるが、第15回試験からは個人の成績を情報開示できるよう準備中である。

(2) 養成施設教育の改革

ア 介護福祉士養成施設教育課程の改正

介護福祉士の質の向上のため、平成12年4月に教育課程の改正が行われた。

イ 教員の質の向上

専任教員は実務経験5年以上の介護福祉士とされているが、質の向上をめざし平成12年からは養成講習会において300時間以上の研修を体系的に行っている。

ウ 実習のあり方

実習は居宅実習を義務づけているが、実習先の確保が困難で十分実習できない状況がある。

(3) 生涯教育体制の確立

資格取得がゴールではない。特に高校生は3年以上の実務経験が不足しているため、自己研鑽により自己の技術や能力のレベルアップを図る必要がある。専門職としての自覚をもち、OJTや外部トレーニング、行政主催の研修等の機会をとらえてほしい。

(4) 職業倫理の確立

社会的弱者を対象とすることが多く、秘密に接する機会も多い。一定の義務を達成できなければ、法的な罰則もあり得る。また、有資格者としてあってはならない事故により利用者を死に至らせた場合には、登録取り消しの処分も検討している。質の高い福祉の向上のために、介護の中心的な役割を果たす人材を育成してほしい。人に接する職業であるため特に「心の教育」を望む。

「基礎介護」 学習指導案

日 時 平成14年10月31日 (木) 第3時限
 学 級 教養福祉科 1年7組 40名
 (男子2名 女子38名 計40名)
 授業者 教諭 尾野 文江

- 1 単元名 介護の意義と役割 (介護従事者の倫理)
- 2 単元の目標 介護従事者としての責任と任務、専門性と基本姿勢など、介護従事者として必要な倫理と態度を育成する。また、介護従事者は腰痛や感染症を生じる危険性があることを理解させ、その対策方法を実践することで自己の健康管理の大切さを理解させる。

3 単元設定の理由

(1) 生徒観 将来は何らかの形で福祉の仕事に携わりたいと考えている生徒がほとんどであり、実習には興味・関心を示している。しかし、基礎介護の実習ではベッドメイキング、体位変換などを行ったが、ただ漫然と行っているという生徒が多い。ボディメカニクスについては一度学習したが、実践するのは難しく、それぞれの介護技術の手順を覚えるのが精一杯である。また、具体的にはどのような動作に応用すればいいのか、実感できていないという生徒が多い。

(2) 教材観 介護従事者として専門性を発揮し、高齢者・障害者の自立生活を支援するためには、介護従事者に必要な倫理と態度を理解させなければならない。その中で、介護従事者自身の健康管理は不可欠である。介護従事者は腰痛や感染症などで健康を害しやすい。しかし、対策方法を学び実践することによってその機会を減らすことができる。また、介護従事者の健康管理は自分自身を守るだけでなく、介護を必要としている高齢者・障害者にとっても安全を保障することにつながる。これらのことを理解させ、実践する態度を育成したい。

(3) 指導観 介護従事者に起こる心身の不調の代表的なものの一つに腰痛がある。腰痛は物を持ち上げようとしたときなどちょっとした動きのときに起こりやすいが、身体の骨・筋肉・関節・神経などの特性を十分理解し、効果的に活用するボディメカニクスを実践することによって予防できるということを理解させたい。また、ボディメカニクスの活用は利用者自身の安全につながることを理解させたい。

4 指導計画	介護の意義と役割	30時間
	ア 介護の意義	6時間
	イ 介護の分野	6時間
	ウ 介護の過程	10時間
	エ 介護従事者の倫理	8時間

介護従事者の倫理 (全8時間)

No	指導内容	配当時間	指導上の留意点
1	介護の倫理 (1) 介護従事者の倫理とは	1時間	○ 個々の利用者を尊重するために介護従事者が掲げるべきことについて考えさせる。
	(2) 社会福祉士及び介護福祉士法による倫理	1時間	○ 社会福祉士及び介護福祉士には義務として守るべき事柄があることを理解させる。

	(3) 日本介護福祉士会の倫理綱領	1時間	○ 最善の介護福祉サービスを提供するためにはどのようなことに気をつければよいか、グループディスカッションを通し理解させる。
2	介護の専門性	1時間	○ 介護の専門性を介護保険制度を通して理解させる。
3	介護従事者の健康と安全	4時間 (本時2/4)	○ 健康な心身の維持はよりよい介護の提供につながることを理解させ、ボディメカニクスを理解した動作を行う必要性を、実習を通して理解する。

基礎介護技術実習指導内容 (第1学年)

No	学習内容	指導上の留意点
1	ベッドメイキング	○ ベッドの構造や環境の調整などを合わせて行い、寝心地のよいベッド・環境を考えさせる。
2	体位変換	○ 安全に留意しながら体位を変換する方法を習得させる。
3	シーツ交換	○ 寝具の清潔の保ち方を学び、安全に素早くシーツを交換する技術を習得させる。
4	寝衣交換	○ 寝衣の清潔の保ち方と残存機能を生かした介護方法を考えさせる。
5	バイタルサインの測定	○ 生命の状態を知ることのできるバイタルサインの測定を適切な方法で行うことができるようにさせる。

5 本時の指導

- (1) 主題名 介護従事者の健康と安全
- (2) 本時の目標
- ①ボディメカニクスとは何か、説明することができる。
 - ②ボディメカニクスの利点を説明することができる。
 - ③ボディメカニクスを活用した動作を行うことができる。

(3) 指導過程

過程時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 10分	①本時の学習内容の確認	○本時の目標を理解する。本時で取り上げる動作について確認する。	○ワークシートを配布し、本時はボディメカニクスを活用した動作を具体的にを行うことを告げる。	ワークシート
	②ボディメカニクスの復習	○ボディメカニクスとは何か、確認する。	○指名し、ボディメカニクスの利点を答えさせる。	
展開 30分	①ボディメカニクスの活用事例についてグループディスカッション	○ワークシートで動作の事例を確認し、どちらの事例が正しいボディメカニクスであるかグループで話し合う。 ○各自ワークシートに記録する。	○2つの動作についての事例を模造紙に記入して掲示し、正しいか誤っているか考えさせる。	模造紙 磁石

	②グループ発表と正しいボディメカニクスの確認 ③ボディメカニクスの原則の確認 ④ボディメカニクスを活用した動作の実践 ⑤感想記入	○グループで話し合ったことを項目ごとに発表する。 ○答えを提示する。 ○ボディメカニクスの原則を記入した模造紙を貼り、確認する。 ○ワークシートの動作をボディメカニクスを活用して行う。 ○ローテーションを組み、各グループ行う。 ○ワークシートに本時の感想を記入する。	○発表者を1名決めさせ、口頭で発表させる。 ○聞く態度ができているか確認する。 ○時間を設定し、順番に行わせる。 ○正しい動作を行わせ、身体に負担がかからないように留意させる。 ○机間巡視し、ローテーションの合間ごとに介護技術の指導を行う。 ○実習が終了した者から感想を記入させる。	模造紙 磁石 段ボール
まとめ 10分	①本時のまとめ ②次時の予告	○本時の感想を発表させる。 ○次回は体位変換の臥位から座位になる方法を行うことを告げる。	○数人を指名し、本時の感想を発表させる。 ○今後介護を行う上でボディメカニクスを活用することの必要性を説明する。	

6 評価

- グループの話し合いに参加し、自分の意見を発表することができたか。(関心・意欲・態度)
- ボディメカニクスの利点や原則を理解し、今後の実習で実践する姿勢を養えたか。(知識・理解(思考・判断))
- 正しいボディメカニクスを活用した動作を行い、感想の記入・発表を通し、自らの体験としてその必要性を理解することができたか。(技能・表現)

「社会福祉基礎」学習指導案

日時 平成14年10月31日(木)第3時限
学級 普通科第2学年
社会福祉基礎選択者17名
授業者 教諭 嶋田 拓巨

1 単元名 社会福祉のあゆみと法制度

2 単元の目標

- 社会福祉六法を中心にすえ、現存する我が国の各種の社会福祉法制は、終戦後の歴史的な経緯と密接な関わりの中で成立してきたことを理解する。また戦後約50年間の生活の質的变化に伴って社会福祉法制が改正されてきたことや、介護保険法などの新しい法制が成立してきたことを理解する。
- 現在の各種の社会福祉法制は我々が何らかの福祉ニーズを抱えた場合に、その困難を解決していく手段と方法の1つとなることを理解すると同時に、福祉ニーズの発生と解決は身近な問題であることを理解する。
- 生活困難を解決していくための行政機関や財政の構造について理解する。ひいては我々に最も身近な行政単位である市・町・村の行財政について知る。

3 単元設定の理由

- 生徒観 「社会福祉」というと自分とはあまり関係がなく他人のものであるという認識をしている生徒が大部分である。ホームヘルパー3級を取得するという意識から、老人の問題であるとも考えがちである。さらに我々が社会福祉法制の対象者となったり、サービスの利用者になるという可能性があるということの認識不足がある。
- 教材観 社会環境の多様化、複雑化により生徒を取り巻く生活環境は大きな変化をしてきている。家族形態や生活構造、ライフスタイルの変容が同時に福祉ニーズの変化へと影響を与えていることや、社会福祉が自分たちの日常生活に深くかかわっていることに気づかせたい。
- 指導観 社会福祉を社会全体の中でとらえ、社会構造の変化に伴う今日的な社会福祉は自分たちの生活に深くかかわっている身近な問題であることを理解させ、広い福祉観を身につけて欲しい。また、1つの事例を提示し、今日の生活ではどのような福祉ニーズが生じやすいかワークシートを用いたグループ学習の中で理解させ、福祉ニーズを解決するために各種の社会福祉法制が存在することを理解させたい。

4 指導計画

全18時間

	指導内容	時間	指導上の留意点
1	社会福祉のあゆみ	2	○非人道的な扱いをされていた時代から人権思想の高まりによって人間的な処遇へと変化してきたことに気づかせる。
2	社会福祉の誕生と発展 (1) 終戦直後の状況	(5) 1	○戦災者への処遇として福祉三法が成立してきたことを理解させる。

	(2) 高度経済成長期の社会福祉 (3) 社会福祉見直しから社会福祉改革へ (4) 21世紀への展望	2 1	○高度経済成長と高齢化の進展に伴って終戦直後とは異なる意味で三法以降、福祉六法が成立してきたことを理解させる。 ○社会福祉は歴史的背景や国家の経済状況によって変化を遂げてきたこと、特に近年在宅福祉の重要性が高まっていることに気づかせる。 ○「社会福祉基礎構造改革」のもとに現在の社会福祉は終戦直後とは大きく変化したことに気づかせる。理由として、国民の生活ニーズや福祉ニーズが変化してきていることにも気づかせる。
3	社会福祉の主要な法律 (1) 社会福祉を支える法律・制度とその発展 (2) 社会福祉の主要な法律(本時3/3)	(5) 2 3	○八法改正をもとに福祉行政は中央から地方へと移ってきたことを理解すると同時に、地域での福祉(地域福祉)の意識が高まってきていることにも気づかせる。 ○現存する社会福祉の法律を知り、我々の生活と密接に関係することを理解させる。
4	社会福祉の行政機関	2	各種の行政機関があり、生活上の様々な福祉ニーズに対応できるようになっていることを理解させる。
5	社会福祉の財政 (1) 社会福祉の財政をとらえる視点 (2) 国の社会福祉財政 (3) 地方公共団体の財政 (4) 財政をめぐる国と地方との関係	(4) 1 1 1 1	○社会福祉の財政は我々の納める税金や保険料から成り立っていることを認識させる。 ○年々社会保障関係費の割合は増えていることに気づかせる。 ○高齢化の進展に伴い、特に老人福祉費が増加していること、また生活保護費の無変化の背景には戦後と異なる近代的貧困があることに気づかせる。 ○国が小さな政府策を行うと、地方では財政が圧迫されることを理解させる。その結果としてのしわよせがサービス利用者にくることにも気づかせる。

5 本時の指導

(1) 主題 社会福祉の主要な法律

(2) 目標

- ・ 社会福祉の分野には様々な法律が存在し、我々の生活から生じる福祉ニーズを解決するものであるということを理解する。
- ・ 社会福祉は我々の生活と身近なものであり、密接な関係があることを理解する。
- ・ 社会福祉は他人だけの問題ではなく、我々にも直接関係する問題であることを理解する。

(3) 準備 事例プリント、ワークシート、ホワイトボード用紙を準備する。

(4) 指導過程

過程時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	資料等
導入 5分	①前回までの学習活動の確認 ②本時の学習活動の説明	①本時の目標を理解する。 社会生活の中で生じる福祉ニーズに対して、我が国の各種福祉法がいかに対応するのかについて学習することを確認する。	①前回まで学習してきた各種の福祉法の復習をさせる。	復習プリント

展開 40分	①事例の提示	①事例についての資料を読む。	①事例を生徒に読ませた後で福祉ニーズについて記録させるが、机間巡視をおこない適宜指導する。 様々な福祉ニーズがあるが、我々の身にも起こりうることに気づかせる。	事例プリント ワークシート
	②福祉ニーズの把握、記録と発表	②どのような福祉ニーズがあるのかについてグループで話し合い記録する。グループの代表者が記録した紙をホワイトボードに貼る。	②グループによって福祉ニーズが大きく異なる場合には、教師がピックアップした福祉ニーズについて話し合うようにさせる。	ホワイトボード用紙
	③福祉ニーズの解決方法の確認	③把握できた福祉ニーズについて、いかに解決していくかについて話し合う。代表者が記録した紙をホワイトボードに貼る。	③机間巡視をして、適宜指導する。代表者に口頭で発表させる。	
	④解決方法と各種福祉法との関係の把握	④解決方法は各種福祉法のどれに基づいて実施されるものかについてグループで記録し、発表する。		
まとめ 5分	①本時のまとめ	①社会生活と福祉ニーズと各種の福祉法は密接なかわりがあることを理解する。	①本時で知ったもの以外にも多くの法制があることについて説明する。	

6 評価

- (1) 社会生活をする中にも様々な福祉ニーズがあることと、我々にも起こりうることであったか。(思考・判断)
- (2) 各種福祉法は福祉ニーズを解決していく手段と方法であり、身近な存在であることが理解できたか。(知識・理解)

「社会福祉実習」 学習指導案

日時 平成14年10月31日(木) 第3時限
 学級 教養福祉科 2年7組 38名
 (男2名 女36名 計38名)
 授業者 教諭 岸 雅 世

1 単元名 社会福祉現場実習(第2期) 反省、記録

2 単元の目標 実習の報告や発表を通じて、各自が行なった実習内容を客観的に振り返らせるとともに、他の生徒の実習体験を聞いてその体験を共有し、互いに考えさせる。
 できたことの喜びや達成感を実感させると同時に、実習中に生じた問題点の原因や課題を明確にし、今後の実習において、自ら考えて適切なコミュニケーションや介助を行えるよう積極的に課題解決を図る姿勢を育成する。

3 単元設定の理由

(1) 生徒観 この学級の生徒は、介護福祉士国家試験受験資格及び訪問介護員1級の資格取得を目標として学んでいる。2年次においては3週間の現場実習を行なうが、現在は5月、9月の2回、計10日間の実習を終えたところである。

現場実習や校内での授業の様子を見ても、まだ自分の技術や知識に自信がなかったり経験不足のためか、介助の途中で考え込んだり指示待ちをしてしまったり棒立ちになる場面が多々見受けられる。自分自身のことで精一杯で、相手のペースを無視した介助を進めてしまうなど、自分の行動を振り返る余裕がないのが現状である。介護の知識・技術の習得を図りながら、場当たりの対応ではなく、理論に基づいた介護技術と利用者に応じた声かけを行うために、常に自分の行動をフィードバックする習慣を身に付け、臨機応変にふるまう力と心のゆとりを育てたい。

(2) 教材観 介護は、異なった生活歴や生活観を持った利用者それぞれに合った対応を必要とするものである。相手の立場に立った個々のニーズに応じた介護をするには、介護技術以外にも、利用者の心理的側面も含めて包括的に捉える観察力と気持ちのゆとりを、経験の中で養っていくことが何より必要である。

しかしながら年間15日の現場実習で経験できることはわずかであることから、個々の生徒が直面した問題点や課題を共有させることは大変有効であると考えられる。「自分ならどう声をかけ、どう介助するか」ということをロールプレイングを通じて疑似体験し、考えて介助を行なうことの大切さを理解させ、身に付けさせたい。

(3) 指導観 施設への巡回指導を行なった際、必ず職員の方から言われることは「積極性が足りない」、「指示待ちで立ちつくしていることが多い」ということである。生徒自身もそれに気づいているものの、なかなかそれを解消することができず伸び悩んでいるのが現状である。

ロールプレイングや他の生徒の発表を通じて、利用者・介護者のそれぞれの立場に立って考える機会を多く設けることが気持ちのゆとりを生み、それが利用者個々のニーズに合った介助を行なう力につながっていくと考えられる。今自分が出来ていることを認めた上で、自分の抱えている問題点や課題をしっかりと自覚して解決しようとする意識を定着させ、今後の実習への自信と意欲を持たせたい。

4 指導計画	社会福祉現場実習(第2期)	45時間
	ア 意義と目的	1時間
	イ オリエンテーション	4時間
	ウ 現場実習の実際	35時間
	エ 反省、記録	5時間 (本時)

反省、記録(全5時間)

No	指導内容	配当時間	指導上の留意点
1	実習ノートのまとめ	1時間	○実習目標の達成状況、受け持ちケース、実習を終えての総括等についてまとめ、反省を基に次回の実習へと発展させる。
2	施設実習報告発表会	1時間	○各施設の現状報告・実習内容等を報告した後、各自の反省・感想等を発表させる。 ○発表をすることにより、それぞれの実習内容を確認し、達成感を持たせる。 ○体験できなかった施設の概要を知り、次回の実習先での留意点などについて理解させる。
3	困難事例についてのグループディスカッション	3時間	○各実習施設ごとに、各自が施設で遭遇した困難事例についてまとめ、発表させ、個々の体験を共有させる。 ○特に解決の難しい事例を取り上げ、ロールプレイングで再現し、「自分ならどうするか」を常に考えて行動できるよう課題解決を図る姿勢を育成する。

5 本時の指導

(1) 主題名 困難事例についてのグループディスカッション

(2) 本時の目標 ①自分の経験を客観的に振り返るとともに、他の生徒の経験を聞いて自分にも起こりうる問題であると積極的に受けとめる。
 ②グループの活動に意欲的に参加し、自分の意見を発表する。
 ③問題点や課題について、解決方法を系統立てて考え行動することの大切さを理解し、今後の実習に役立てようという姿勢を身に付けさせる。

(3) 指導過程

過程時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 10分	①前時の学習内容の確認 ②本時の学習内容と目標の確認	○前時にグループごとに話し合った内容を確認する。 ○本時に取り上げる事例の内容を確認する。	○第2期実習における各自の問題点等を再認識させる。 ○事例を取り上げた根拠と、体験を共有する意義について説明する。	前時のプリント
展開 35分	①代表グループのロールプレイングによる困難事例再現 ②グループディスカッション ③グループ発表	○なぜこの事例を取り上げたのかも合わせて発表する。 ○各自でこの事例の良かった点改善すべき点などを見つけプリントに記入する。 ○自分の考えを発表し、より良い介助方法をグループで検討し模造紙に記入する。 ○模造紙にまとめたものを発表する。 ○他のグループの発表を聞く。	○ロールプレイングの意義について説明する。 ○困難事例の再現を通じて、気づいた点をまとめ、グループで検討し、発表してもらうことを告げる。 ○事例を振り返る際、ロールプレイングを用い、互いにその立場を体験しながら考えるよう指示する。 ○プリント記入の際、「なぜそう思うのか」その理由を明らかにするよう指示する。 ○他のグループと自分たちの考えの違いを明確化し、総合的に考えてどのような介助方法が望ましいか、系統立てて考えさせる。	ワークシート 模造紙 マジック マグネット
まとめ 5分	①本時のまとめと講評 ②次回の予告	○本時を通じて気づいたこと、次回の実習に向けての心構えをプリントにまとめ発表する。 ○第3期の実習の概要等について知る。	○介助をする上で大切な技術や声かけについてまとめる。 ○介助者が心のゆとりを持って行動することの大切さを理解させる。 ○第3期実習の概要と目的を知らせる。	ワークシート

6 評価

- 自分の経験を客観的に振り返ったり、他の生徒の経験を聞いて自分にも起こりうる問題であると積極的に受けとめることができたか。(思考・判断)
- グループの活動に意欲的に参加し、自分の意見を発表することができたか。(技能・表現)
(関心・意欲・態度)
- 問題点や課題について、解決方法を系統立てて考え行動することの大切さを理解し、今後の実習に役立てようという姿勢を身に付けられたか。(知識・理解)

社会福祉実習（現場実習）見学

1 実習施設と人数配置について

施設名		2学年	3学年
青嵐荘（介護老人福祉施設）	結城市	5名	5名
青嵐荘ケア（介護老人保健施設）	総和町	5名	5名
青嵐荘療護園（身障者施設）	総和町	4名	
青嵐荘つくし園（身障者施設）	三和町		4名
白英荘（介護老人福祉施設）	総和町	5名	5名
愛光園（介護老人保健施設）	古河市	5名	5名
平成園（介護老人保健施設）	古河市	5名	5名
ひまわり荘（介護老人保健施設）	野木町	4名	4名
境町サービス（社会福祉協議会）	境町	4名	
あじさい学園（知的障害者更生施設）	八千代町		4名
ファミリー境（介護老人福祉施設）	境町	5名	5名

2 今回の見学施設について

介護老人保健施設「ひまわり荘」
栃木県野木町南赤塚1218-1

3 実習構成

実習期間をそれぞれの目標に沿って修得できるように2段階に分けて行う

- 基礎実習・・・2年次に15日間
- 展開実習・・・3年次に15日間

(1) 基礎実習 <目標>

- ①実習施設の社会的役割を知る。
- ②実習施設の概要を知る。
- ③利用者に接し一日の生活の流れを知る。
- ④介護者の業務内容、および介護の役割について理解する。
- ⑤利用者の基本的な日常生活援助について、指導者のもとに実際に体験する。
- ⑥実習記録の取り方を学び、記録の意義について理解する。

(2) 展開実習 <目標>

- ①利用者の日常生活の援助を通して、介護技術を高める。
- ②利用者のレベルに応じて求められる介護技術の展開を学ぶ。
- ③施設内で行われる行事や、レクリエーションプログラムに参加し、活動の意義を理解する。
- ④医療・看護の関連で独自判断で行ってはいけない仕事と、連携の方法について学ぶ。
- ⑤介護計画の重要性を理解し、立案、展開することの必要性を知る。

4 生徒観及び指導観

施設実習では2年時に15日間（第1期～第3期）、3年時に5日間（第4期）の実習を終えた。これまでの実習をとおして、利用者や職員とのかかわりの中で、生徒自身が成長し、福祉をさまざまな視点から捉え、利用者の立場に立った介護技術や利用者の状態把握を観察すること大切さを知った。今期の実習は第5期と第6期（計10日）のまとめの実習である。受け持ち利用者を決定し、身体的・心理的・社会的な全体的な側面から利用者を理解し、その人の援助を考える視点を育成したい。

講演会

平成14年10月31日(木) 12:45~14:15
茨城県立古河第二高等学校 体育館2階 アリーナ
司会 内田 一洋 (神奈川県川崎市立川崎高等学校長)

「21世紀に求められる介護福祉士の役割」

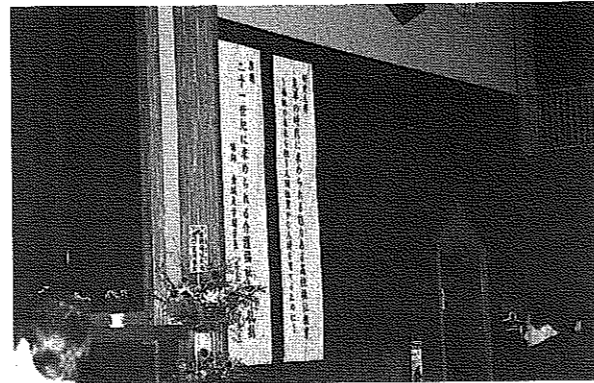
講師 金城大学副学長 井上 千津子 氏



はじめに

もともと家庭科教員であった私は退職後、家庭奉仕員（ホームヘルパー）として出発した。その当時家庭奉仕員とは「高齢者と心身障害者の話し相手になること。高齢者と心身障害者の身の回りの世話をすること。」とされ、社会的評価は低く、キャリアは社会的評価を受けないものであった。そういった状況の中、オリエンテーションもなく、初めて訪問した家は一つの窓しかない薄暗い家であった。そこには発声言語も無い目だけが光っているお年寄りがいた。私はその状況を見て、「人生の終焉に廃品扱いされてたまるか。邪魔物扱いされてたまるか。」という思いに駆られた。最期を迎える人にも人として愛され、生きてきた歴史・ドラマがある。そのことをしっかり受け止めその歴史を次世代に伝えていくことのできる人材の育成に努めたいという思いを抱いた。

その当時、ホームヘルパーは家庭奉仕員という名前にもあるように存在そのものが希薄であった。しかし、ホームヘルパーが大切にされない世の中はおかしいと感じた。ホームヘルパーがライフワークとして取り扱われ、経済保障、身分保障をされ大切にされることは、高齢者・障害者が大切にされることにつながる。その思いから、10年かけて、現場の立場から介護福祉士の資格の法制化を行ってきた。法制化されたと同時に、介護の質を高め、介護に携わる者の発言力を高めることが必要であると感じ、再び



教壇に戻ったのである。

1 介護は21世紀の中心的事業

21世紀を語る前に20世紀がどうであったかを振り返ってみる必要がある。20世紀は人権無視の戦争の時代であったと言えよう。戦後は、様々な矛盾の中で人権思想を確立しようとする国民の絶え間ない努力があった。そして医学の発達、公衆衛生の発達、戦争のない社会の到来の結果、寿命が延びた時代でもあった。現在のわが国の平均寿命は女性が84.7歳、男性は77.9歳。「長寿とは人間が作り上げた最高の芸術である」という素敵な言葉がある。長寿社会が確立した今、本当に長生きしてよかったと思えるにはどうすべきか…このことが21世紀の課題と考える。

ホームヘルパーとして訪れたある家庭は104歳のお年寄りを86歳と82歳の夫婦が介護していた。104歳のお年寄りは「私は業が深いから迎えにきてもらえない。早く逝かないと息子に先立たれてしまう。」と言っていた。そして長寿のお祝いのために県知事が訪れる日に、家から離れた池にいざって行き、入水自殺をしてしまった。このように長寿が悲しいということほど惨めなものはない。長寿を喜べる社会になるようにすることが21世紀の大きな課題である。

20世紀は生きていくこと・生き抜くことが大切だった。そして21世紀の現在、生活の質の向上を目指した自己実現へと視点が変わっていった。以前は福祉サービスは非課税世帯への選別

的受動的なものであった。しかし現在は措置体制からサービス利用者が主体的に選別・選択・決定できる体制へと変わったのである。さらには介護保険の導入によって「自由契約」の時代となった。

21世紀の中心的事業は介護である。対人援助（介護）とは長寿社会を価値あるものにしていく仕事である。介護を学ぶ者に求められることは、介護という実践を通して人権思想をしっかり確立していくことである。

2 介護の本質

介護とは「誰のために何のためにやるのか」ということから考えなくてはならないだろう。介護とは医療領域ではなく「生活」の中から立脚した造語である。昔は介護という言葉はなく、看護の中に含まれていた言葉であり、またその看護は家政の中に含まれていた。介護の基礎学問は生活の基盤となる家政にあると考える。家政は生活をどうあるべきか考え、真正面から取り組んできた学問であり、とても大切な領域である。

医療が元の状態に戻すことを目標としているのに対し、介護は、元に戻らなくなり様々な障害があっても価値ある人生を送ることを目標とするものである。介護には様々な概念があるが私は「つらい顔をうれしい顔にする過程」だと捉えている。介護は、生命維持が第一義にある医療とは異なり、生きる意欲を引き出しながら命を守っていくものである。そして生きる意欲を引き出すということは、快適な生活を組み立てることである。快適な生活とは当たり前の生活を遂行できることであり、この生活を組み立てるのが介護であり、介護援助者なのである。「生活」は「基本的欲求（生理的・精神的・社会的・文化的）が充足するプロセス」である。基本的欲求を充足させるための様々な生活行為が行われているのである。そして欲求をどのように満たしていくのかといったことが介護のものさしになる。

介護の目的・本質は、生活を成立させる援助を通して利用者の自己実現を図ることである。技術が問われがちになるが、技術ではなく、それを通してどうやって表現していくかが大切なのである。おむつを替えることやご飯を食べさせることが介護なのではない。それらはあくまでも手段である。それらの手段を通し自己実現を図り生きる意欲を引き出していくことが介護

である。また、技術は介護のコアであり、技術は介護を具体化するもので確かなものでなくてはならない。

高校の福祉教育において、短時間の中で充足できることは限られてくると思われる。理論と理論を具体化する技術を教えなければならないので大変である。介護の対象者は自分で自分の行為ができなくなり基本的人権が脅かされがちな人である。何を落としてはいけないかを明確化し、人権思想に立った教育を実施していただきたい。

3 介護の小史—ホームヘルパーの体験から—

現在、PPK（ピンピンコロリ）とかGNP（元気でニコニコボン）が理想的であると言われているが、誰もがそういくわけではない。誰も介護を受ける日は必ず来る。介護を受けなければ人生は終わらない、ということは自然の摂理である。どのように最期を看取ってほしいかを考えた時、介護の人材理想像が浮かんでくるのではないか。人はどんな状態になっても「私を私として認めてもらいたい」という願いはあると思っている。

現在介護に携わる人たちが少ないといわれている。また、安易な研修体制のホームヘルパーの量産体制に危機感を抱いている。資格を取るだけではいけない。対象を理解し相手をどうやって認めていくのかといったことを考えることが大切なのである。全面依存であろうと誰も願いや夢はあるということを押さえておきたい。現在は介護不足のため状態が悪化し、費用加算していく場面が多く見られる。状態の悪化は介護量の増大（物面と費用）につながり、それが介護不足に結びつくという悪循環をたどっている。この悪循環をいかに早く断ちきるのかといったことが今後の課題である。

2002年に始まった介護保険も様々な問題を含んでいる現状で、介護の真髄は「人」と「もの」に出会わせることではないだろうか。ホームヘルパーとして訪れた家庭にスプーン1杯のご飯も食べない人がいた。その方に「隣のおじさんがあなたのことをとっても心配していた」と伝えたところ、ご飯1膳をべろりと平らげたのである。近所の人に心配されたことが生きる意欲につながったのである。このような事例からも分かるように、私は忘れ去られていないという実感が持てたことが生きる意欲につながるのである。一番つらいことは無視されること。こ

の世に存在していることを忘れ去られること。大切なのは、いかに多くの物や人に結びつけること、枕辺にいかに多くの人を持ち込んでいくかといったことである。そのことはチームケアの概念につながっていくものである。

また、ホームヘルパーとして訪問した別の家庭で、梅干の漬け方を教わったことがある。梅干の塩加減から干し具合までしっかり教わり、その方が亡くなった時に自分が漬けた梅干を持っていった。この事例のように、関わった方から学ぶことはたくさんある。相手から学び取る感性が大切である。ホームヘルパーとして、相手の人生を肯定し学んだことを若い世代にしっかりと伝えることが大切であろう。

4 生活を支える意味

高校生が介護をどうやっていくのか、難しいことだと思う。現在の高校生は、生活はすべてコンビニでまかなわれてしまっており、生活というものがどういうものであるのか分かっていないことが多いように思われる。「しつらえる」という言葉があるが、食べ物を例に挙げると、食べることをしつらえる過程が食事。食べ物には一つ一つに歴史があり、その食べ物になるまでの過程を知ることが大切である。高校生に生活というものを理解させる教育が必要であると思う。

介護者が関わる対象の多くは高齢者である。高校生の場合、年齢の差が大きい。異世代ということは異文化でもある。その人の歴史性・地域性・個性を、生活を理解する手がかり（キーワード）として理解させる必要があると思う。そのために、高校生には自分の生活を知り、自分の生活がどのようにして成り立っているのかを学ばせる必要があるだろう。

5 介護教育のあり方

(1) 人権感覚そのものからの教育

介護は感性教育がどこまでやれるかで決まってくると思う。感性とは、人の痛みを自分の痛みとしてどれだけ受け止められるか、共感できるかといったことである。人間としてこれでもいいのだろうか、どういう状態がいいのか、共に考えていくこと（共時性）に立って感じるのが介護の出発点といえよう。「共感」「共時性」が人権教育の根本であると考えられる。

「少年と木」（リルケ著）というポエムはこのことを伝えるよい教材のひとつなのでぜひ読

んでいただきたい。よい本を読んだり詩を味わったりすることは感性を育てる上で大切である。

(2) 生活者としての教育

まず、当たり前の生活とは何なのかを家庭科教育の中で実施していただきたいと思う。物を大切にすることも教えていかななくてはならない。そしてリスクを想定しリスクに対応できる能力が必要な現在、相手がいる場合をいつでも考えられる生活者になってもらいたい。

(3) 実践者としての教育

介護というものは実践学、実学である。理論や知識だけでは動かない。実学を身に着けるには「実践」「技術」「理念」が必要と考える。技術は介護の目的を支えるものである。その中で「実習」は生きた人間として抱える問題をどう実践するのが重要であると思う。実習で応用技術を身につけることはできない。実習の目的は技術の習得ではない。学校では原理原則を教えることであり、生理学・解剖学を理解することである。

介護が家政学に位置すると前述したが、介護の根底にあるのが家政的配慮と家政的管理であるからである。配慮とは快適な生活としての配慮であり、管理とは具体的実践である。実習教育の価値が問われる中で、現状としては依頼する側と受け入れ側双方で食い違いが見受けられ、実習そのものが実施困難な状態である。そのようなことを踏まえても学校で原理原則をしっかりと学ばせ、実習において応用できることが望まれる。

6 まとめ

感性教育の中で高齢者をどう捉えるか、高齢者観をしっかりと確立していかなければならない。「高齢者＝問題 高齢者＝負担」と捉えるのではなく、生きてきたという長い人生のドラマに、「生きている」それだけで存在価値がある、そのような捉え方ができるようになってほしい。

ある高齢者と関わったとき、心に残った言葉がある。「井上さん、人生って染め直しが効かないわね」人生を精一杯生きなさいと伝えてくれた。言葉の裏に何があるのか、それについても考えさせられたものであった。

介護の価値を高めることは高齢者の幸せにつながり、またそれは我々にも幸せをもたらすものであると考える。

校長部会・総会

平成14年10月31日（木） 14:30～17:00

茨城県立古河第二高等学校 体育館1階 サブアリーナ
司会 吉田 昌弘（静岡県立吉田高等学校長）

1 開会のことば 外山 茂樹 理事
(函館大妻高等学校長)

2 会長挨拶 高橋 照夫
(全国福祉科高等学校長会会長)

3 議長選出
高橋会長を議長とする案が承認される。

4 議事

(1) 平成13年度事業報告 (事務局)

(2) 平成13年度会計決算報告 (事務局)

(3) 平成13年度監査報告 (監査)

(4) 平成14年度事業計画 (事務局)

(5) 平成14年度会計予算書 (事務局)

会場代を必要とするため会議費を 50,000円増額

(6) 平成14年度役員について (会長)

ア 平成14年度役員について

イ 福祉科校長会地区名称の改正について
大会冊子 p15、16
九州→九州・沖縄

(7) 平成14年度加盟校について (事務局)

ア 平成14年度加盟校について
全国福祉科校長会新規加盟高 13校

宮城：明誠高

茨城：大子二高

群馬：藤岡北、吉井、玉村、桐生第一

埼玉：彰華学園

東京：日本女子体育大学体育学部附属
二階堂

岐阜：海津北、本巣、高山

静岡：富士宮東

熊本：有明

イ 本年度より福祉科校長会加盟校一覧に
文書の郵送料削減のためのメールアドレスを記載。

(8) 総会並びに研究協議会会場地区、主任等
分科会分担について (事務局)

ア 平成15年度全国大会

主管校：大分県立野津高校

開催日：平成15年10月29日～31日

イ 平成16年度全国大会
主管校：徳島県立小松島西高校

(9) 福祉科校長会の所属について (会長)
福祉科の独立に関する問題については多数
の意見交換と質疑応答があった。

・福祉を開設する学校は福祉部会に加入し加盟校を増やしていくこと、財政面の問題には会費を値上げして全国の学校から徴収してはどうか。(岩手・西和賀・菊池)

・福祉科目の新設後も家庭部会に留まるのはおかしい。財政面と組織の充実は独立後の問題で、これを機に新学科として独立すべきではないか。たとえ独立までに時間がかかっても独立という結論を出しておくことは必要。(愛知・古知野・小田)

・新学習指導要領の面からも福祉部会が誕生するのは当然の流れである。独立のネックとなるのは財政面や事務局の負担であるから、会議をインターネット化するなど経費節減の方向を検討してはどうか。(福井・大野東・中内)

・独立できるよう旅費や大会運営費を少なくする方法はないのか。経費節減の方向を探ってもらいたい。

(東京・日本女子体育大学附属二階堂・氏家)
・純然たる福祉科は全国でも少数ではないか。独立の際にどの程度の加盟校があるのか不安が残る。独立は時期尚早ではないのか。(岐阜・大垣桜・山本)

・一般に福祉の学科主任は社会か家庭の教員であり、事務局の意見を伺うと独立は難しいのではないかと。(岐阜・坂下女子・伊藤)

家庭に関する学科からの独立にはまだ準備や基盤が不十分であることから、各都道府県、各地区で組織の基盤を固めていきながら、一方で小委員会を立ち上げ、独立の時期や独立することによるメリット、デメリット、財政面などを十分に検討していくという方向で話が進んだ。

5 閉会のことば 澤山 義久 理事
(広島県立黒瀬高等学校長)

平成13年度事業報告

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月23日(水) 10:00~15:30	第1回 学科主任代表者会議 ・岩手大会について ・学科主任代表者会組織について ・代表者組織の活動について	午前：家庭部会事務局会議室 午後：アルカディア市ヶ谷
5月23日(水) 13:30~16:30	第1回理事会 ・役員を選出について ・要望書の作成について ・岩手大会に向けて ・平成14年度開催地区について (関東地区) ・福祉教育実践研究会の設立について	家庭部会事務局会議室
6月14日(木)	文部科学省及び厚生労働省へ要望書提出	
6月21日(木)	広報「福祉系高校だより」 第I号発行	広報部 事務局 吉田高等学校
10月7日(日) 8日(月)	福祉教育セミナー 福祉科関係高校卒業者の大学入学枠 の拡大要望	名古屋国際会議場
10月24日(水)	第2回 理事会 第2回 学科主任代表者会議	岩手大会会場 岩手県立一関第二高等学校 ホテル ベリーノ一関
10月25日(木)	岩手大会 第1日 (総会・公開授業・研究協議会等)	
10月26日(金)	岩手大会 第2日 (講演会・閉会行事 等)	講師 日本社会事業大学教授 大橋謙策 氏
2月上旬	全国福祉科高等学校及び福祉教育実態基礎 調査集計報告	調査統計部 事務局 長浜高等学校
12月7日(金)	広報「福祉系高校だより」 第II号発行	広報部 事務局 吉田高等学校
3月22日(金)	岩手大会報告書の刊行	A4、450部、58P (うち、写真4P) 各校2部配布

平成13年度 全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計決算書

収入額 1,046,581円
支出額 737,946円
残 額 308,635円

1 収入の部(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額	摘 要
会 費	860,000	895,000	35,000	年会費5,000円×179校
繰 越 金	151,461	151,461	0	
雑 収 入	1,000	120	△ 880	利息
合 計	1,012,461	1,046,581	34,120	

2 支出の部(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	残 額	摘 要
総 務 費	380,000	196,176	183,824	
会 議 費	70,000	73,585	-3,585	
印 刷 費	30,000	0	30,000	事務局印刷費
旅 費	100,000	60,000	40,000	事務局1人分総会派遣費
通 信 費	180,000	62,591	117,409	
事 業 費	560,000	541,770	18,230	
報告書印刷費	400,000	368,550	31,450	A4版450部
総会補助費	20,000	20,000	0	
広報部補助費	30,000	40,440	-10,440	
調査研究補助費	50,000	90,590	-40,590	
研修部補助費	30,000	0	30,000	
雑 費	30,000	22,190	7,810	封筒印刷・写真
予 備 費	72,461	0	72,461	
予 備 費	72,461	0	72,461	
合 計	1,012,461	37,946	274,515	

監査の結果、適正に処理され相違ないことを認めます。

平成14年3月20日

福祉科高等学校長会 監事

群馬県立大間々高等学校長

古 稻 勝 彦 ㊞

福祉科高等学校長会 監事

埼玉県立不動岡誠和高等学校長

宇田川 努 ㊞

平成14年度事業計画

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月30日(木) 10:00~15:30	・茨城大会について ・学科主任代表者会組織について ・代表者組織の活動について	第1回 学科主任代表者会議 研修部・調査統計部・広報部 日本私立学校振興・共済事業団 502号室
5月30日(木) 13:30~16:30	・役員を選出について ・要望書の作成について ・茨城大会に向けて ・平成15年度開催地区について (九州地区) ・【福祉科高等学校長会】の事務局担当校について	第1回理事会 家庭部会事務局会議室
10月30日(水)	第2回 理事会 第2回 学科主任代表者会議	茨城大会会場 茨城県立古河第二高等学校 あすなろ会館
10月31日(木)	茨城大会 第1日 (講演会・総会・公開授業・研究協議会等)	講師
11月1日(金)	茨城大会 第2日 (全体報告会・閉会行事等)	金城大学副学長 井上千津子 氏
2月28日(金)	茨城大会報告書の刊行	A4、450部、60P (うち、写真5P) 各校2部配布

- ・広報「福祉系高校だより」発行
- ・全国福祉科高等学校及び福祉教育実態基礎調査集計報告
- ・社会福祉教育セミナーでの福祉科関係高校卒業者の大学入学卒の拡大要望
- ・指導書(実践事例集)の作成

平成14年度 全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計予算書

1 収入の部(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘 要
会 費	895,000	860,000	35,000	年会費5,000円×179校
繰 越 金	308,635	151,461	157,174	
雑 収 入	1,000	1,000	0	
合 計	1,204,635	1,012,461	192,174	

2 支出の部(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘 要
総 務 費	430,000	380,000	50,000	
会 議 費	120,000	70,000	50,000	第1回学科主任会会場費 全国大会会議費補助等
印 刷 費	30,000	30,000	0	事務局印刷費
旅 費	100,000	100,000	0	事務局1人分総会派遣費
通 信 費	180,000	180,000	0	
事 業 費	610,000	560,000	30,000	
報告書印刷費	400,000	400,000	0	A4版450部
総会補助費	40,000	20,000	20,000	
広報部補助費	40,000	30,000	10,000	
調査統計部補助費	70,000	50,000	20,000	
研修部補助費	30,000	30,000	0	
雑 費	30,000	30,000	0	封筒印刷・写真
予 備 費	164,635	72,461	92,174	
予 備 費	164,635	72,461	92,174	
合 計	1,204,635	1,012,461	192,174	

校長部会・研究協議会

平成14年10月31日(木) 14:30~17:00
茨城県立古河第二高等学校 体育館1階 サブアリーナ
指導助言 矢幅 清司(文部科学省初等中等局参事官付教科調査官)
司会 宇田川 努(埼玉県立不動岡誠和高等学校長)

<研究協議会>

- 1 介護福祉士国家試験の合格率について
- 2 福祉科の所属について
- 3 福祉科の教員の研修について
- 4 福祉科の教員数について

1 介護福祉士の国家試験の合格率について
・福祉系高校生の介護福祉士国家試験の合格率は全体の合格率よりも高いと聞かすが、実態を伺いたい。(東京・日女体二階堂・氏家)

・平成13年度全体の合格率が41.4%、福祉系高校(NHK学園を含む)42.1%、平成12年度全体の合格率が45.9%、高校が49.9%と2年続けて高校生のほうがよい。(矢幅)

2 福祉科の所属について
・福祉科が家庭に関する学科に所属する場合と福祉科として独立する場合は、どちらが有利か。(愛知・古知野・小田)

・家庭に関する学科に属して介護福祉士の受験資格を取らせると、生活産業基礎の履修に加え受験資格に必要な34単位の履修が必要となり、生徒の負担が重くなる。現在、福祉科として独立した際、教員定数が4名に加配になる方向で要望を出している。施設・設備は1000㎡と従来の2倍に、保育・福祉の基準金額も増額する方向で最終調整している。各校からも要望してもらいたい。要望が通らなければ3年間は現状維持となる。一般財源の中の地方交付税についても、福祉に関する学科を置くことによって助成額を加配す方向になってきている。

(矢幅)



3 福祉科の教員の研修について
・福祉に携わる現職教員の研修の機会を増してほしい。(岡山・倉敷中央・産賀)

・新産業技術等指導者講習会の中に新教科「福祉」、「情報」の講座を加えるよう拡充を求めている。1講座5日間、各県1名参加で30名定員という案を出している。(矢幅)

4 福祉の教員数について
・福祉に関する学科となり現在8名でやっているが、福祉の教員を増やすことはできるか。(鹿児島・加世田常潤・諸木)

・現在、福祉に関する学科は県からの単独加配になっているが、今後は国が加配を保障するということである。増員については、こちらではお答えできない。(矢幅)

主任等の部会・研究協議会
学科設置校分科会

平成14年10月31日(木) 14:30~17:00
茨城県立古河第二高等学校 福祉棟4階 福祉多目的教室
司会 水口 順子(滋賀県立長浜高等学校教諭)
五十嵐 武(岡山県ベル学園高等学校教諭)

テーマⅠ 授業研究

『社会福祉制度』で『総合的な学習の時間』の試行

発表者 神奈川県川崎市立川崎高等学校
教諭 岡 多枝子

- 1 教科「福祉」創設前夜の現状～新学習指導要領実施に向けて～
文部科学省は2003年度から高等学校学習指導要領を改定し、専門教科として「福祉」科を設置した。これに伴い「社会福祉基礎」「社会福祉制度」など7科目が設定され、科目毎に目標・内容が定められた。また、「生きる力」を育むための「総合的な学習の時間」も創設され、体験的活動や課題解決型の学習が重視されることとなった。
以下にその授業実践の概要を記す。
- 2 実際の流れ・方法・内容
(1) 1学期：オリエンテーション・授業
年度当初に生徒に対して「社会福祉制度」の科目目標と年間学習計画を示し、授業の形態や評価方法と基準についても説明し、了解を求めた。併せて体験活動を取り入れた授業とする旨の説明を行ったところ、「総合学習を中学校でもやった」「面白そう」などの声が聞かれた。
(2) 定期テスト・評価
評価基準の概要は、定期テスト、授業中の学習への意欲、発表内容、レポート、出席状況などの総合評価とした。中でも定期テスト(年間5回)に関しては80点以上を合格基準とし、1時間の授業が終了する毎に(状況によっては授業中に)テスト内容の提示を行い、生徒の自己学習への動機付けを行った。
(3) 夏期休業
1学期最後の授業時に、社会福祉制度における自己の課題やテーマを夏期休業に見つけておくように呼びかけた。生徒は施設実習やボランティア活動等を通じてこの期間にテーマや行き先を検討した。
(4) 2学期：テーマ設定・班編成
9月最初の授業において、テーマ別に班編成を行った。結果は以下の通りである。
1班(4人)「ホームレスに関する今後の課題」、2班(5人)「児童虐待に関する街頭アンケート調査」、3班(5人)「ドメスティック・バイオレンス～その現状と課題」、4班(3人)「フリースクール見学」、5班(4人)「虐待を受けた子ども達の現状」「児童養護施設を訪問して実際を知る」、6班(3人)「幼稚園と保育園の違い」、7班(3人)「児童福祉の現状と課題」、8班(3人)「インスタント・シニア～障害者体験」、9班(5人)「知的障害者と施設」、10班(3人)「児童虐待について」。
生徒の関心領域が児童福祉に多く集まったため、多少の調整は行ったが結果的には領域が同じでもテーマや見学先、調査方法などに違いがあったために異なる報告内容となった。
(5) 準備・交渉・係分担
授業の前後、または授業中に見学先への連絡や交渉を行った。しかし全体的に事前の調整には大変な困難が生じた。全体的に見学を希望した受け入れ先に断られるという事態が多く発生した。

むしろ一度で承諾されるケースの方が希であった。

例を挙げると、1班は最初、市役所でホームレス支援策の実際を聞き取り調査する計画を立てた。しかし市役所窓口にお問い合わせると「市議会への対応で忙しい。区役所で訊いて欲しい」と取材を断られ、直に区役所に行くと「ここではそのような部署はない」と言われた。また3班はドメスティック・バイオレンスの被害者に用意されたシェルターの見学を希望したが、所在地の情報を得ることすらできず、紆余曲折の後、県立婦人相談所での受け入れ承諾を得ることができたのである。

(6) 当日(校外学習・調査・体験・観察等)

校外学習当日(10月4日)は、各班と個人それぞれのテーマに沿って東京～神奈川県のような地域に出かけて調査・体験・観察などを行った。班によっては受け入れ先への事前訪問や事後に追加での再訪問を行ったところもある。生徒は緊張しながらも熱心に活動し、資料(パンフレット等)や記録物(写真・メモ・デジタルカメラ)を持ち帰った。

(7) 事後学習・報告書作成・報告会準備

生徒は体験したことをもとに事後学習を行い、各人が報告書(A4用紙3枚)と各班でパワーポイント(5～10枚程度)を作成し、報告集を完成させた。そして授業参観(川崎市体験活動モデル事業公開授業発表と共催)で発表する班を立候補で3班選んで、報告会の準備を行った。報告会に向けては各班が役割分担をして、司会進行、会場準備、案内状作成発送等の仕事を進めていった。

(8) 報告会(以後は全国大会後の動き)

報告会当日(11月21日)は、発表した3つの班に対して質問や意見が活発に交わされ、一つの班の体験をクラス全体で共有することができた。体験活動で訪問した諸機関からも来賓を迎え、コメンテーターとして今回の生徒の活動に対する評価や助言をしていただくことができた。

ホームレス自立支援施設の職員の方から「不況の中でホームレスの自立には多くの困難があり、自立支援法についても今後その拡充が必要である」との発言をいただいた。県立婦人相談所長さんからは「これまでに大学生が担当窓口取材に来たことはあったが、高校生は初めて。しかも社会福祉制度に関する問題意識を持つての調査活動を熱心に行ったので大変感心した」とのことであった。

(9) 授業での深化

報告会で発表しなかった班は次週の授業で発表を行った。ここでも他の班から次々と質問や意見が相次いだ。例を挙げると、「駅のバリアフリーに関する体験活動を行った班に：全国の駅のエレベータ設置状況はどうか」「児童福祉事務所での取材を行った班に：設置基準と全国及び県下・市内での設置数は」などである。各班ではそれぞれに質問に答えるとともに不明な点は再度調査して次時に報告するなど積極的な学習態度がみられた。

3 まとめと今後の課題・実社会との関わりの中で

今回の実践を通して、社会福祉の授業への多くの知見を得ることができた。まず、生徒の学習に対する姿勢や意識の変容が著しいものがあり、改めて体験活動や課題解決型の学習効果が大きいことが明らかとなった。しかし通常の授業に加えての事前事後指導には膨大な時間と労力を要するの事実であり、今後、各科目特に社会福祉演習などの授業での実施においては、システム化に向けての教師の研修・研究と物理的な条件整備(予算・人員・情報へのアクセス・スーパーバイザー等)の充実が求められるといえよう。

4 質疑応答

Q：1学期の中で、社会福祉制度の5つの内容を終了させるとあるが、評価はどのようにしているのか。(埼玉 不動岡誠和高)

A：1学期の中間テストには、学期の初めに例えば「25個のキーワードを用いて論述する」という形式を示しておきテストをすることで、生徒はポイントを押さえながら学んでいく。教員は、生徒がまとめたレポートを随時見る。生徒達は福祉について学びたいという意欲は高く、教員が提示した事柄は一生懸命やっというところなので、テストの平均点は高く、低い生徒に対しては再テストなども実施している。

発表などの平常点も加味している。校外見学では小レポートも提出させるようにしている。これは生徒のよい点を評価するために実施している。

Q：平成15年度から総合的な学習の時間を社会福祉演習で代替する学校が多いが、社会福祉制度と社会福祉演習との関係はどのように考えるといいか。

社会福祉演習の内容を教えてください。(愛知 古知野高)

A：社会福祉演習では、調査、研究、事例研究、ケアプランを取り扱っていく。現在は国家試験対策を行っている。他に文化祭や県の産業教育フェアで「劇」を発表したりしている。本年は「愛の介護物語」を発表する予定である。

平成15年度からは「総合的な学習の時間」は社会福祉演習で代替していくが、今後も、さまざまな科目の中で、実社会と接点をもつ授業を進めていきたいと考えている。

Q：社会福祉制度は4単位の予定であるとのことだが、この後3年生で2単位を実施すると考えていいのか。(栃木 真岡北陵高)

A：平成14年度は2年生で2単位実施し、これで終了する。来年度以降は4単位を2年生で実施する予定である。

また、介護福祉士受験に必要な科目のうち、社会福祉実習の2単位を3年生に残し、他は、1・2年生で終了するようにカリキュラムを組んだ。3年生ではこれまでの学習を深めていくように考えている。

Q：校外学習にはどのくらいの時間をかけているのか。また交通費等経済的負担はどのようにしているのか。(鹿児島 宮之城農業高)

A：授業内で実施するように考えた。授業が金曜日の1・2時限であるため10時30分には学校に戻ってくる予定で計画させた。

事前訪問はしてもいいとしたところ、文化祭の午後の代休を使って訪問したグループもあった。ホームレスの夜のパトロールは夜9時からのため学校長の許可を得て実施した。フリースペースへの訪問は夕方からの方がよいということであった。そのため、授業の振り替えはなかった。

交通費については、自己負担とした。

5 指導助言 加藤 路子先生

(茨城県教育庁高校教育課指導主事)

教科「福祉」は、一方では国家試験に対応できる知識や技術を詰め込んでいかなければならないという側面があり、もう一方では豊かな人間性を育むという側面が必要となる。総合的な学習をそうした視点で捉え、生徒の課題解決能力等を体験的に身につける手法を授業に取り入れていくことが求められると思う。中学生の職場体験学習等を通して感じるのだが、座学中心の授業では生徒の興味・関心はなかなか喚起されない。岡先生のような取り組みはこれまでの教育観、つまり限られた時間や空間や人材の中で教え込むという在り方を問いただすものだと思う。各先生方においても時間の枠を払い、教室から出て、地域の人材を活用していくという学習方法を生徒の実態や地域の実情に合わせて授業に取り入れ、実践を積んでいってほしい。

テーマⅡ 資格取得

「人間性豊かな介護福祉士の養成を目指して」

発表者 岡山県立倉敷中央高等学校
教諭 本多 淳 宏

1 本校の概要

本校は昭和23年に、岡山県青年師範学校附属高等学校として設立され、今年度で54周年を迎える。昭和40年に、衛生看護科の設置とともに現在の校名となり、平成8年に、家政科の学科改編により、岡山県内の公立高校として初めて本校に福祉科が設置された。現在では、各学年が、普通科5クラス・家政科1クラス・衛生看護科2クラス（1年は看護科1クラス）・福祉科1クラス・専攻科1クラス（衛生看護科）からなり、全校生徒数は、1,101名（平成14年4月現在）である。

2 資格取得への取り組み

本校では、専門教科「福祉」を学ぶ延長線上に「資格」を位置づけ、全員での資格取得を目指している。最終的には介護福祉士を目指す、福祉に関連する様々な資格にチャレンジしていくなかで、学習への意欲を高めさせるとともに、自分に自信を持たせるよう配慮している。

また、訪問介護員同行訪問実習においては調理依頼が多く、日常食が時間内にできる程度の調理技術が必要となるため、福祉科の生徒全員に家庭科技術検定の食物3級をとらせている。また、保育3級もとらせることで、絵本の読み聞かせ（言語表現）やリズムを取りながら歌を唄うこと（音楽表現）等を通じて、人前で発表する訓練にもつなげている。また、折り紙や平面構成等の造形表現は、デイサービス等の施設実習でも効果を上げている。

<資格取得一覧>

普通救命講習修了証（1年次）
家庭科技術検定 食物4級（1年前期）、食物3級（1年後期）
同 保育4級（1年次）、保育3級（2年次）
訪問介護員2級（2年次）
訪問介護員1級（3年次）
介護福祉士国家試験受験資格（卒業次）
福祉住環境コーディネーター3級（希望者）

3 国家試験受験対策について

(1) 一次（筆記）試験対策

- ア 全国統一模擬試験（2社）を実施し、課題として生徒に解答を調べさせてレポート提出させたり、授業等で内容解説を行う。
- イ 国試13科目についての「小テスト」を実施（計26回）し、成績不審者及び希望者に対して補習授業を行い、基礎学力の定着を図る。
- ウ 3学期には、「放課後10分間ポイント補習」を毎日実施し、専門用語の解説をしたり、生徒からの質問を受ける。

(2) 二次（実技）試験対策

- ア 卒業考査終了後に、16人（4×4グループ）づつ、8回にわたる実技指導を行い、介護ビデオや介護CD-ROMを使用しながら実技対策指導を行う。
- イ 二次試験受験対策として、福祉施設現場から国家試験に合格した寮母を2名招き、受験会場での様子を聞いたり、実技試験問題の実技指導等をしていただく。
- ウ 二次対策模擬試験を実技補習最終日に行い、本試験と同様に会場設営をして、人前で発表するという緊張感をもたせながら、二次試験への意欲を高めさせる。

(3) 過年度卒の国家試験不合格者への対応

- ア 国家試験の受験案内を7月ごろに各家庭に旧担任からの手紙を添えて配布し、未取得者に対して資格取得を促す。
- イ 希望者に対して、補習を適宜行う。2月には、実習室の一部のベッドを卒業生用に確保し、本人の申し出により、いつでも練習ができるようにする。

4 豊かな人間性とより高い専門性をもつ介護福祉士の養成を目指して

(1) 豊かな感性を育むために

- ア 「朝読」の実施
毎朝、SHR前に全校で朝の10分間読書（朝読）を実施し、本に慣れ親しむ環境を整える。
- イ 「ウエルフェアデー」の実施
地域の老人会や老人福祉施設の利用者の方々を文化祭にお招きして、楽しんでいただく。
- ウ 「今想うこと～福祉科通信～」の発行（福祉科1～3年）
それぞれが抱えている悩みや率直な意見などを、無記名のメモ書きで提出させて、福祉科の生徒全員での意見交換の場として随時掲載する。
- エ 「福祉科お楽しみ会」の実施
親睦を深めながら、ゲームやスタンプの発表の場とする「お楽しみ会」を実施し、レクリエーション学習の場につなげる。また、実習開始式や施設実習報告会など、福祉科全学年での取り組みを行うことにより、福祉科の生徒としての意欲づけを行う。

(2) 専門教科の深化を目指して

- ア 「介護事例研究」の導入（福祉科3年生）
福祉科3年生の卒業論文として介護事例研究を行い、専門領域の深化を目指す。
- イ 社会人講師活用事業の実施
介護者としての専門知識の深化・統合を図り、専門教科に対する意欲を高めさせるために、各学年で年に2回づつ、社会人講師による特別授業を計画・実施する。
- ウ 「海外医療福祉研修」の実施（希望者）
ストックホルムとロンドンで海外医療福祉研修を行い、専門教科に対する意欲を高めるとともに、海外からの視点を養う契機とする。
- エ TV会議システムを利用した授業
リアルタイムで講義を受けながら、他校の生徒と意見交換を行い、福祉に対する広範な考え方を学習するために、TV会議システムを適宜利用する。
- オ 校外での学習活動
「医学教育博物館での課題研究」（1年）、「盲・聾・養護学校訪問」（2年）、「障害児（者）施設への訪問・実習」（2年）等

(3) 教員の資質向上を目指して ～「福祉科教員研修」の実施～

校内で毎月1回、担当者による福祉科教員研修を行い、専門知識と技術の習得に励む。

5 おわりに

ただ単に「資格」を追い求めるだけでなく、介護に携わる者としての資質を高めながら、生徒が福祉を学んで本当に良かったと心から思えるように、人間性の豊かな福祉の担い手として地域からの要望に応えることができるように、さらなる実践を積み重ねていきたいと思う。

6 質疑応答

Q：就職に関して、求人倍率が4.0となぜ高いのか。どういうところから求人があるのか。

(秋田 六郷高)

A：介護関係で特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、デイサービスセンター等から求人がきている。実習先で生徒が非常によく頑張っているため、早い生徒は2年生のうちから是非就職してほしいという話もある。ボランティアとして毎週土曜日ごとにグループで施設に出かけていき、積極的に、真剣な態度で臨むので大変有り難がられている。国家試験の合格率が良い、またアフターケアがしっかりしているのが評価されているのではないかと考える。

Q：10分間講習の専門用語の抽出はどのようにやっているのか。また、福祉科通信に何か制限はあるのか。

(鳥根 明誠高)

A：福祉科教員のそれぞれの専門分野を生かして指導している（公民1名、家庭2名、看護1名）。用語の抽出は介護福祉士のワークブックを参考にし、国家試験出題頻度の高い語句は重要と考えて取り扱っている。また、老人保健法等の制度的な改革のあったものについては、授業の他に、特別に直前に押さえるようにしている。

「今 思うこと」という福祉科通信は、授業の終わりなどに自由に書かせている。提出するときは氏名を記入させている。そうすると生徒の考えていることや家庭的なことも教員が把握することができる。発行するときは氏名は出さないようにしている。書く内容については特に制限はしていない。

Q：住環境コーディネーター3級は教員も取得しているのか、また何人が取得しているのか。

(福井 啓新高)

A：教員4名のうち3名が2級を取得している。試験はたいへん勉強になるものである。

Q：校内での福祉科教員研修はどのようにしているのか。

(長野 上田千曲高)

A：福祉科の担当範囲はたいへん広く、講習会等で免許を取ったとしてもすべてを十分に指導することは厳しい。校内でお互いの専門分野を生かしながら研修会をもって今年で3年目になる。月1回担当者を決めて実施し、教

員の質の向上を図っている。将来誰がどの教科を担当してもいいように配慮している。

Q：家庭科技術検定保育4・3級の資格はどのようにするとよいのか。(福岡 杉森女子高)

A：内容について詳しいことは各学校の家庭科の教員に聞いていただきたい。主な内容には言語表現、音楽表現、造形表現、家庭看護の4つがあり、レクリエーション指導等に役立つものとする。

Q：福祉の科目6科目で使用しているテキストを教えてください。(奈良 榛原高)

A：テキストとしては、中央法規から出版されている「介護福祉士養成講座」シリーズを使用している。補助教材として、「模擬問題集」、「受験ワークブック上下」、2次試験対策として、「絵で見る介護」を使用している。

Q：5名の先生方の係分担はどのようにしているのか教えてください。

(埼玉 不動岡誠和高)

A：教諭は4名と、厚生労働省により緊急雇用対策で「福祉スペシャリスト」として非常勤講師1名にきていただいております。週15時間授業の補佐をしてもらっている。

係分担については主になる人を決めて、その人だけに任せるのではなく、2人でペアを組んで担当するようにしている。2・3年生の施設実習は原則として、福祉科教員全員で取り組むようにしている。

7 指導助言 加藤 路子先生
(茨城県教育庁高校教育課指導主事)

あらゆる方面からあらゆる策を尽くして先生方が熱心に研修を重ねた結果が国家試験における合格率の高さや就職における求人数の多さに表れているように思う。資格取得というのは生徒にとって身近な目標設定となるため、それが学習への意欲づけにつながりやすい。今日の発表の中で紹介された実践例をもとに各学校においても資格取得に向けて積極的に取り組んでほしい。

テーマⅢ 進路指導

「宮崎県の現状と進路指導について」

発表者 宮崎県立高原高等学校
教諭 石川 加奈恵

1 本校の現状

(1) 進路状況

ア 今年度本校福祉生活科3年生の進路希望状況

本校の福祉生活科3年生に進路に関するアンケートを行ったところ、下のような結果が得られた。福祉職に就きたいと考える生徒が多く、その中でも地元での就職を希望している生徒が大半である。

<進学希望>

	4年生大学 (福祉系)	短期大学		専門学校		合計
		福祉系	一般	医療福祉系	一般	
生徒数	5	2	0	14	2	23

<就職希望>

	就 職		就職進学		その他	合計
	福祉系	一般	医療福祉系	一般		
生徒数	11	2	1	0	1	15

イ 本校及び本県の養成校（公立4校）における進路状況

本校及び県内にある養成校（公立4校）における進路状況を調査したところ、下のような結果が得られた。結果から、本校の福祉生活科の生徒は、福祉に対する意欲が大変強く、福祉職につくことを目標にしている生徒が、多いということがわかる。

(ア) 本校における福祉関係の進学者及び就職者の割合

	1期生 (H8)	2期生 (H9)	3期生 (H10)	4期生 (H11)	5期生 (H12)	6期生 (H13)	全体
合計 (%)	80.6	74.4	67.5	57.9	59.0	60.0	66.4

(イ) 本県の養成校（公立4校）における進路状況

	進学率	福祉系進学率	就職率	福祉系就職率	福祉系進路の割合
H12年度	62.7%	51.0%	22.2%	23.5%	37.2%
H13年度	56.3%	36.4%	30.5%	34.8%	31.1%

2 宮崎県の現状

(1) 宮崎県の福祉施設における介護職の雇用状況

県内の養成校に入学を希望する生徒の多くは、卒業後福祉関係の仕事をしたと考えている生徒達である。しかし例年、卒業後福祉職に就く生徒は少なく、生徒の希望に添った進路指導が難しくなっているのが現状である。そこで今回、県内にある特別養護老人ホーム65施設と介護老人保健施設42施設に、平成13年度介護職の雇用状況に関する調査を依頼した。調査結果は次の通りである。

(107施設のうち85施設回答、回答率79.4%)

<正規採用者の年代構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	合計
採用数	16	132	19	27	14	208
資格取得数	10	90	7	6	8	121

<正規採用者における平成13年度卒の学校種別>

	高校	専門学校	短大	大学	その他
人数	12	78	6	5	0
資格取得数	7	67	3	0	0

<臨時採用者の年代構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	合計
採用数	4	107	46	54	63	275
資格取得数	3	46	2	6	2	59

<臨時採用者における平成13年度卒の学校種別>

	高校	専門学校	短大	大学	その他
人数	3	42	7	5	0
資格取得数	3	34	4	0	0

(2) 施設が求める人材

以上の結果からみてもわかるとおり、10代の採用は「正規雇用」「臨時雇用」のどちらとも10%未満であり、高校を卒業してすぐに福祉職に就くことの難しさが分かる。しかし、この結果に対し、確実に介護福祉士の資格取得ができる専門学校生の雇用は、ゆうに7割を超えている状況にある。また、高校卒業と同時に福祉職に就いた生徒の約7割が、介護福祉士の資格を取得しており、施設側の採用の基準として資格を重視していることが分かる。資格を取得していなくても、経験豊かな人材を雇用していることも大きな特徴であった。

3 今後の課題

来年度から教科「福祉」ができ、今まで「家庭に関する科目」に属していた「福祉」が「福祉に関する科目」に変わる。これにより「福祉」は更に専門的知識や技術が必要になり、現場で対応できる実践力をつけていく教育をしていかなければならない。そのためにも我々教員が日々研修を積み、それらを生徒たちに伝えていかなければならない。

今後ますます高齢化が進むにつれ、福祉の現場でも専門的知識及び技術を兼ね備え、経験豊かな人材を求めることになる。そういった中で、介護福祉士国家試験の合格率を向上させるとともに、幅広い経験を積み、人間性でも豊かな人材を育てていくことが私たちの課題であると考えます。

今回の研究で宮崎県の現状を知ることができた。この結果に対し、学校としてどのような進路指導や対策が必要なのかを深く考えることができた。今後も、この研究の結果を活かしていき、取り組んでいきたいと思う。

4 質疑応答

Q：(1) 研究協議会資料(以下、資料)13ページ「本校の卒業生の進路一覧」表にある「就職進学」とは、どのようなことなのか。
(2) 資料18ページ「本校における進路指導」の表について

ア 2年生の「クラフト講習会」の目的及び内容はどのようなものなのか。

イ 1年生の3月に行われている施設実習の期日はいつか。

ウ 3年生の模擬テストは校内のものか、業者のものなのか。(兵庫 日高高)

A：(1) 「就職進学」とは昼間働きながら学校に通うということである。ほとんどの生徒が准看護師を目指して病院に勤務しながら、夜間に看護の専門学校に通っている。過去の卒業生の中には介護福祉士や保育士を目指して「就職進学」している者もいる。

(2) ア 「クラフト講習会」については、8月の訪問介護員同行訪問実習でお世話になる利用者の方へのお礼(ドライフラワーの壁飾り)づくりを目的として昨年度より実施している。

(2) イ 1年生の施設実習は、3月の第2週に実施される3年生の一般入試が終了してから5日間の予定で実施している。1年生から体験的な学習をさせたほうがよいという判断で3年前より実施している。

(2) ウ 3年生の模擬テストは、中央法規、福祉教育カレッジ、東京アカデミーの業者テストを行っている。直前模擬試験は校内で作成したものを使用している。

Q：校内における福祉系学科以外の生徒が福祉系の進路選択をした場合、面接や小論文の指導等に福祉科の職員が当たることになり、負担が増えている現状がある。そうした場合、教員間の連携をどのようにしているのか。

(青森 七戸高)

A：本校の場合も他の学科からの福祉系進路選択者(2~3名)に対しては、福祉科の教員が面接や小論文の指導をしている。1学年3クラスで教員数が少なく、そうせざるを得ない状況にあり、確かに負担増となっている。しかし、福祉系に進みたいという生徒は意欲があるので、教員側も努力して取り組むようにしている。

Q：福祉系の就職が難しいということだが、それは7月にされる求人票による就職のみを指しているのか。また、求人票の時期を遅らせるということは検討していないのか。

(三重 いなべ総合学園)

A：7月にされる求人は福祉施設の場合1~2件程度で、しかも県外である。県内の求人票はほとんどが専門学校等に出されているようで、高校には出されないのが現状である。そのため、ハローワーク主催の看護や福祉に関する合同面接に臨むようにしている。福祉施設からの求人は、2~3月にすることが多く、その時点では大部分の生徒の進路が決まっているので、なかなかうまくいかない。また、4~5月に卒業生を紹介してほしいという連絡を受けたりもするが、こちらも生徒の進路が決まってからのことなので難しい。就職が決まっている生徒の約半数は施設実習でお世話になった施設から声がかかっているため、施設実習の指導は重視していきたいと考えている。

5 指導助言 加藤 路子先生

(茨城県教育庁高校教育課指導主事)

資料16ページの「高校生に希望すること」という実習施設でのアンケートの結果に関心を持った。この結果は福祉施設への就職を希望する生徒だけでなく、あらゆる高校生に共通して期待される高校生像を示しているように思う。

まず、「能動的に取り組む姿勢があること」という項目では、総合的な学習における自ら課題を設定し、解決する能力を身につけるという目標と合致する部分があり、大いに授業に取り入れ、育成してほしい部分である。

次に「実社会の体験があること」では、現場での実習をうまく活用して、たとえば実習体験の発表をする際には、実習施設の職員や学校評議員などを招いて、生徒の変容や学習の成果をアピールするような工夫をしてほしい。

それから「基礎学力の向上」という項目があるが、これについては教員側が丁寧な指導をしているにもかかわらず、社会にはそれがよく伝わっていないという印象を受けた。

「基本的な生活習慣を身につける」ということについては、看護科の戴帽式のようなセレモニーを福祉科でも導入し、そこに保護者を巻き込んで家庭での基本的な生活習慣の確立に対する意識づけをしていくとよいのではないかと。

主任等の部会・研究協議会
コース・系列等設置校分科会

平成14年10月31日(木) 14:30~17:00
茨城県立古河第二高等学校 福祉棟2階 看護実習室
司会 小川 義光(青森県東奥学園高等学校教諭)
矢野実代子(広島県立黒瀬高等学校教諭)

テーマⅠ 現場実習

「現場実習の取り組みと今後の課題」

発表者 和歌山県立有田中央高等学校
教諭 名原伸子

1 本校及びふくし系列の概要

平成9年に総合学科になり6年目の学校で系列は6系列ある。1学年200名のうち20~30名がふくし系列の科目を選択している。ふくし系列の科目を選択することで、訪問介護員2級研修修了証及び介護福祉士国家試験受験資格が取得できる。

2 実習の概要

実習計画は資料の通りで、オリエンテーションは10時間行った。特に「実習の心得」は時間をかけて確認している。

毎年、保護者説明会を実施している。校長より実習の意義、福祉科より実習内容及び欠席・遅刻の取り扱い、身だしなみ、費用等、進路部より福祉関係の進路の現状の説明を行っている。また、今年度は、在宅介護支援センターの社会福祉士による、「福祉の現場で求められる人材」という題の講演を行った。朝起きたら、家族に「おはよう」と挨拶しているかなどの例をあげ、普通の感性を持ち、当たり前のことのできる人が福祉の現場で必要とされているという内容であった。

保護者説明会に参加後のアンケート結果(回収...保護者15名)

大変よかった 11名 ・どちらかといえばよかった 4名 ・よくなかった 0名

参考になったこと

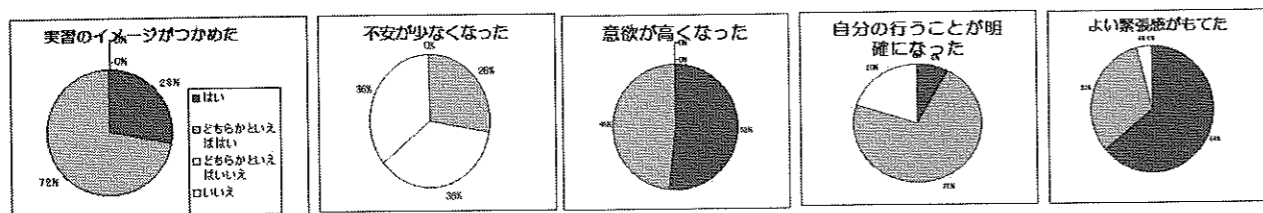
- ・実習への心構えがよくわかった
- ・福祉の仕事の重要性がわかった
- ・資格取得の重要性がわかった
- ・福祉の状況が理解できた

その他

- ・真剣な態度でない生徒が気になった
- ・卒業生の話も聞けたら良いと思う

実習直前には施設の職員による、施設の概要や利用者との接し方等の講義と、現場でよく使う介護技術の指導を実施した。

オリエンテーションのアンケート結果



意欲や心構えといった点では効果的であったが、緊張感が高くなり、不安感もあるとわかった。

学んだこと

- ・施設は利用者の生活の場で、利用者に合わせて行動することが必要
- ・施設では自己判断せず指導者の指示に従う・目標を持って行動する
- ・前もって準備することが大切・言葉遣いや態度、身だしなみに気をつけなければならない
- ・学校での実習とは違い、緊張感を持って取り組まなければならない

疑問点

- ・コミュニケーションについてもっと勉強したい・痴呆の方が何度も同じ事を聞く場合の対応

感想

- ・これから実習に行くという気持ちが高まってきた・自分にできるだけ事を一生懸命やりたい
 - ・今まで学んだことを十分活かしたい・簡単に考えていたので不安がついてきた
 - ・緊張してきたけど、がんばろうと思う・ビデオが大変参考になった
- 実習終了後、2年生も参加し実習報告会を行った。
実習報告会アンケート結果

3年生

- ・就職してからも活かせると思う・他の人の経験から学べた・他の人の発表に共感できた

2年生

- ・コミュニケーションが難しいとわかった・学校の実習も一生懸命やらなければならない
- ・学校での実習が基本になると分かった・わかりやすい発表で、先輩の経験から色々学べた
- ・実習に行つてよかったというのを聞いて励みになった
- ・3年生が勉強していて知識が豊富なので驚いた・質問に丁寧に答えてくれてさすがだと思った

3 今後の課題について

(1) 生徒への早い時期からの意識づけ

現場実習に対して、生徒は真面目な気持ちで取り組んでいるが、日頃の学習の成果を試す機会であり、早い時期からの学習指導や生活指導が重要になってくる。特に、記録には学力の違いが顕著に現れ、国語の指導の必要性を感じている。施設職員からも稚拙な記録であると指摘されている。巡回指導における記録の個別指導はもちろん、日頃からレポートなどに取り組みせ、それに対して十分な個別指導を行っていききたい。また、生活の基本として躰られていない部分が気になるが、家庭の責任として放置できず、どう取り組むかが課題である。

(2) 事前・事後指導と授業内容の充実

事前指導において、生徒に目標を立てさせ、何を学ぶのか具体的にイメージさせる必要があった。事後指導で体験の共有を深める事について、小グループでの意見交換の場や教員との面接も必要であると考えている。

(3) 実習評価を生徒の成長につなげる取り組み

施設の評価

評価基準 5非常に良い 4良い 3普通 2努力を要する 1かなり努力を要する

評価項目		5	4	3	2	1
1 実習態度	実習に対する意欲・自主性	5	14	6	0	0
	あいさつ 礼儀 言葉遣い 身だしなみ	3	17	5	0	0
	協調性 責任感	3	11	10	1	0
2 コミュニケーション	話し方 聞き方	4	7	14	0	0
3 介護	利用者の観察	1	9	13	2	0
	技術が的確に実施できる	1	3	17	0	4
4 実習記録	適切な表現 内容が充実している	0	7	13	5	0
5 総合評価		1	9	15	0	0

評価表より

人数

- ・利用者笑顔で接する事ができ、よかった・明るい態度がよかった・真面目に取り組んでいた
- ・前向きに取り組んでいた・日を追うごとに成長していく姿が見受けられた
- ・実習期間中にコミュニケーションの取り方が上手くなった
- ・緊張していたのか表情が堅いように思った・記録は感想だけではなく何をどう学んだのか書いて下さい・記録には介護の方法の意味などを書いて欲しかった・自分から行動して欲しい

施設の評価は、実習態度については高い評価である。所見欄を見ると態度と取り組みについて良いコメントをいただいている。努力する点は記録についてと自主性の不足している点である。

生徒自己評価

評価基準		5	4	3	2	1
1	明るい態度で、前向きに取り組めた	6	15	4	0	0
2	あいさつがきちんとでき、適切な言葉遣いでコミュニケーションが取れた。良い身だしなみであった	7	13	4	1	0
3	職員や他の実習生と協調性をもって行動し、責任感のある態度がとれた。	3	12	9	1	0
4	指導や助言は適切に受け、素直に従った	10	12	2	1	0
5	利用者と良い関わりを持つことができた	12	8	4	1	0
6	適切に介護技術が実施できた。	10	5	9	1	0
7	実習記録をきちんと書くことができた	8	9	8	0	0
総合評価		5	16	4	0	0

生徒の自己評価をみると高い満足感を得ている。利用者との関わりや介護技術については特に満足している。

実習終了後の生徒アンケート

良い経験になったこと・学んだこと

- ・学校では経験できない介護技術を学べた・障害のある方の介護が経験できた
- ・施設の様子、利用者の生活がわかった・高齢者とのコミュニケーションの方法がわかった
- ・コミュニケーションの大切さ・高齢者を身近に感じることができた
- ・利用者に対するイメージが良い方に変わった・利用者はそれぞれ違って、個人差があった

反省点

- ・積極性が足らなかった・何をしていたか戸惑った・声かけがあまりできなかった
- ・敬語がうまく使えなかった・痴呆の方とのコミュニケーションが難しかった
- ・移動がうまくできなかった・食事介助のペースが難しかった

困ったこと

- ・学校で実習していない事はわからなかった・指導者さんによって教えることが違って混乱した
- ・指導者さんが忙しそうで話しかけづらかった・何をしていたか分からないときがあった

要望・これからのこと

- ・色々な方法の介護技術を教えて欲しい
- ・学校の実習で確実に技術をマスターできるようにした方がいい
- ・学校の実習も手を抜かず、利用者役の方は協力しすぎないこと
- ・コミュニケーションの取り方をもっと勉強してから実習に行った方がいい

アンケート結果より、高齢者や障害者に対するマイナスのイメージが転換されたこと、実際の介護技術、すなわち、障害のある人に対する個別の介護が経験できたこと、コミュニケーションの重要性を認識できたことがわかる。反省点としては自主性、積極性の不足や介護技術のなかでは移動ができなかったこと、コミュニケーションの難しさをあげ、校内での実習に対する取り組みを反省している。

(4) 施設との関係づくり

施設職員からは生徒の積極性が不足していることを指摘される。生徒たちは学ぶ意欲がないのではなく、意欲はあっても積極的には見えない。それは、明確な意思表示ができていないためである。現場は利用者の生活が主体であり、優先される。学ぶ場の提供が施設の役割であり、どのような状況でも学ぶことはできる。しかし、生徒は声をかけられたり、正しく指示されることで意欲を高める。より良い実習環境をつくるために、教員のコーディネートが必要な部分である。実習を担当する教員間での情報交換を行い、施設と調整を行う必要がある。また、その時々に応じた個別指導が重要であり、時間に余裕を持って施設を訪問したい。

(5) 保護者会の時期の検討

3年生の科目選択の時期に、保護者にも学習内容を十分理解していただく必要性を感じている。今回、現場実習における教員の役割の重要性を改めて認識でき、問題点を見いだすことができた。

テーマII 資格取得

「広島県訪問介護員養成研修事業実施校の現状と課題」

発表者 広島県立吉田高等学校
教諭 井上智恵

1 本校の生活福祉科について

(1) 概要

地域の要望や将来性等を鑑み、平成6年(1994年)に家政科を募集停止し、男女共学の生活福祉科を設置した。近年「福祉」への関心の高まりとともに目的意識を持って入学する生徒の割合も高くなり、男子生徒の入学も増加した。

本校生活福祉科では1年次に、全員同じ教科、科目を履修しているが2年次からは生徒それぞれの興味・関心や進路目標に合わせて「生活文化コース」「福祉コース」に分かれて学習をするようになっているが、例年約60%~70%が「福祉コース」を選択している。

(2) 資格取得について

1年次に全員、広島県訪問介護員養成研修3級課程修了を目指している。

2年次から、「生活文化コース」「福祉コース」の2コースに分かれ、「福祉コース」では、広島県訪問介護員養成研修2級課程の研修修了を目指している。

(3) 卒業後の進路

過去3年間の生活福祉科卒業生の進路は各年度とも、70%前後の生徒が、大学・短大、専門学校へと進学している。

(4) 本校の課題

今年で学科改編後9年目になり、ここ2~3年前から目的意識をしっかりとって入学する生徒が増加してきた。しかし、それにもかかわらず、目的を見失って中途休転退学する生徒の割合は高く、特に今年(平成14年度)の3年生は、入学時の34人からほぼ半減した。入学した生徒が目標に向かっていきいきと学習し、充実した高校生活を送りながら確かな進路を実現させることが、私たち教員の役割であり、学科の課題といえる。

2 県内高等学校における「広島県訪問介護員養成研修事業」について

(1) 実態調査

県内高等学校における「広島県訪問介護員養成研修事業」の実態を把握するために研修実施校(29校)に対して、アンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査の結果

ア 広島県における「福祉」に関する学科等の設置状況(平成13年度)

平成13年度に広島県訪問介護員養成研修事業が認可された県内の高等学校は、県立高等学校27校、市立高等学校2校の合計29校で3級課程を実施している学校が、約60%を占めている。

イ 卒業生の進路状況の比較

進学・就職の割合は、専門学科・普通科・総合学科において大きな違いは認められない。

ウ 平成13年度における福祉関係への進学・就職状況の比較

福祉関係への就職状況を見ると、高校卒業後すぐに福祉関係の職場に就職する場合、他学科よりは福祉科・生活福祉科の方が多少有利であるといえる。

エ 研修実施にあたっての課題と各校の取り組み

課題として、教員の体制・実習時のサポート体制・講師の確保など教員側の人的な面、実習費の受益者負担金・実習時における生徒のマナーなど生徒側の問題、施設設備の改善等があげられた。それらの課題に対して地域講師活用事業や専門高校専門技術指導充実事業を利用したり、地域の施設や、専門学校との連携が報告された。

オ 「訪問介護員としての質の向上」を図るための各校の取り組み

各学校ともに、教員の研修受講と教諭2名体制・外部講師の招へい・地域行事・保育所障害者施設等でのボランティア活動に積極的に参加させそれを通じて心の育成を図る。実技テスト

・筆記テストの合格ラインを厳しくする。校外での発表を多く体験させ、自己表現力を付ける等の取り組みがなされている。

カ 校内の推進体制（申請・報告・実習引率等にかかわって）

ほとんどの学校で関連学科・家庭科の職員が中心的に動いている。しかし、小規模校や、家庭科教員が少人数の学校においては、委員会を設置して申請・報告・実習引率にかかわっている。

キ 生徒・保護者に対するガイダンス

生徒・保護者に多様な方法でガイダンスを行い、研修の内容や実施方法、認定の可否についての説明を行っている。広島県内では、研修に関する申込書や承諾書の提出を求めている学校は2校しかないが、実習に対する理解や自覚を促すためにも申込書や承諾書の提出は大切なことと考えられるので、各学校で取り入れる必要がある。

ク 実施校の抱えている課題

課題に主なものに次のようなものが挙げられた。

*訪問介護員養成研修の科目と、福祉の科目の整合性をどのように取るか。 *2級課程を修了しても、就職に結びついていない。進路保障をどうするか。 *福祉を家庭科の教育内容にどのように位置づけるか。 *教員の研修の機会が少ない。 *学校週5日制にともなって、授業時間の確保が問題となっており、資格取得のための時間が取りにくくなってきている。
*資格取得の要件が厳しくなっているため、一人では事業の実施ができない。 *事務処理が膨大であり、家庭科教員が少人数校では負担が大きい。 *介護保険が実施されてから利用者の権利意識も高まり、施設実習の受け入れが難しくなっている。

(3) アンケート調査のまとめ

アンケート調査により各校とも、生徒・保護者・地域の要望を受けてこの事業に取り組み、生徒の進路保障につなげる努力をしている。

介護保険が実施されて2年が経過し、以前にも増して「訪問介護員の質の向上」が要求されてきた。学校現場も一般養成研修施設と同じか又はそれ以上の質の向上に向けて努力する必要がある。各校ともに事業の充実に取り組んでいる。しかしながら、学校現場では、学校週5日制による授業時間の確保・基礎学力の向上、進路実現へ向けた学力向上、その他多くの学校行事や自主活動により、事業の充実、資格取得を叫びながらもその時間の確保が大変難しくなっている。そのため、生徒・教職員にも「ゆとり」がなく、「福祉」にとって大切な「優しさ・思いやり・暖かさ」など「福祉の心」を育てる時間も、気持ちの余裕さえなくなっているという現実がある。

「福祉」を学ぶことで「福祉マインドを育てる」ということが言われ続けているが、今の学校現場では教職員の「意欲と、やる気」だけでこの事業を継続していくことは、困難を伴っていくことが予想される。

3 おわりに

今回の発表に際し多くの研修実施校にご協力をいただいた。また、「福祉科校長会中国地区研究協議会」において文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅清司先生の講演「高等学校福祉科の現状（介護福祉士国家試験）と高等学校の評価基準」の中で、訪問介護員養成研修2・3級課程は、「専門性が低く直接進路に結びついていない」ということが数字上からもはっきり示された。

「2・3級課程を実施しても活用がないのであれば、廃止しても良い。しかし、福祉へのきっかけづくり、進路実現へ向けた通過点と考え、福祉マインドを育て、きっかけづくり、ステップアップとしての養成研修としては大いに意義のあるものである。」という話を伺った。

本県においてもアンケート調査の結果、残念ながら介護職員としての進路実現にはほど遠いものがあるが、これからの「超高齢社会」を支える人づくりの一環として高等学校における養成研修事業は、続けられる価値のあるものとする。

テーマⅢ 資格取得

「資格取得についてのアンケートのまとめ」

発表者 岡山県美作高等学校
教諭 竹田 吉彦

資格取得について、各高校ではどのような取り組みをし、問題を抱え、考えを持っているのか、また、良い指導方法などがあれば教えて頂きたい、アンケート調査を実施致しました。

平成13年度加盟校、179校にアンケート用紙を送付し、146校からご回答を頂きました。（回収率8割強）

* 貴重なご意見等をたくさん頂きました。ここでは、簡単な報告のみにとどめます。詳しくは「学科主任等研究協議会資料」をご参照下さい。

* () 内の数字は学校数です。

1 取得できる資格についてお聞きします。

(1) 貴校の福祉の学科(コース)で取得できる資格について、お知らせください。(146校回答)

		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	計
訪問介護員	1級	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	49
	2級	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	△	127
	3級	○	×	×	×	○	○	×	×	○	○	×	×	○	26
介護福祉士 国試受験資格		○	○	×	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×	97
学校数		2	45	1	1	6	7	38	27	1	9	4	5	1	146
[総合学科]								[1]			[1]	[3]			[5]

○・・・取得できる

×・・・取得できない

△・・・外部に依頼

(2) その他取得できる資格

- ・福祉住環境コーディネーター3級～2級
- ・秘書検定3級～2級
- ・文部科学省認定の食物調理・被服製作技術検定3級～1級
- ・漢字検定3級～2級
- ・難病患者等ホームヘルパー基礎課程Ⅰ・Ⅱ
- ・英語検定3級～2級
- ・日本赤十字社救急法救急員
- ・保育技能検定4級～1級
- ・普通救命救急講習修了証
- ・視覚障害者ガイドヘルパー
- ・手話技能検定6級～5級
- ・上級救命講習修了証
- ・ワープロ技能検定4級～1級
- ・手話基礎資格(入門・基礎)
- ・救急手当普及員
- ・レクリエーションインストラクター
- ・手話(初級)
- ・救急法救命員
- ・車椅子フォークダンスインストラクター

2 訪問介護員(ホームヘルパー)の資格取得できる学校の先生にお聞きします。(131校回答)

(1) 養成研修の期間を教えてください。何年生の何月から何年生の何月ですか?

【1級課程】 ※3年生を中心に実施している。

【2級課程】 ※2年生を中心に実施している。

【3級課程】 ※2・3年生を中心に実施している。

(2) 訪問介護員養成研修での外部講師は、何名ご依頼されていますか?(132校回答)

・0名(24) ・5～6名(1) ・12名(3) ・25～30名(1)

・1名(14) ・7名(6) ・13名(2) ・1級20名、2級11名(1)

・2名(23) ・8名(2) ・14名(1) ・1級4名、2級2名(1)

・3名(15) ・9名(3) ・15名(2) ・1級3名、2級1名(1)

・4名(11) ・10名(7) ・17名(1) ・2級6名、3級4名(1)

・5名(6) ・11名(4) ・20名(1) ・2級7名、3級6名(1)

(3) 訪問介護員養成研修で、別途集金されていますか?(132校回答)

○集金している(65) ○集金していない(64) ○その他(3)

※名目は、実習費・研修費・テキスト代・保険加入料・ファイル代・謝礼金・教材費等

※ 金額的には500円～45,000円までとても幅広い状況でした。

- (4) 訪問介護員養成申請では、条件等が厳しくなって苦勞されたのではないかとありますが、養成期間の制限・講師の条件の制限等で工夫されたこと、困られたことがございましたら、ご記入下さい。又、その事でご意見等がありましたらお願いします。(103校回答)

※「学科主任等研究協議会資料」をご参照下さい。

3 介護福祉士国家試験受験の資格取得できる学校の先生にお聞きします。

- (1) 介護福祉士の国家試験に向けてのお取り組みを教えてください。(94校回答)

ア 国家試験対策の特別な授業時間を作られていますか。

○作っている (39) ○作っていない (55)

※「社会福祉演習」・「福祉実習」・「国家試験対策」などで、7校時や土曜日の午前中に実施。

イ その他、国家試験に向けての取り組みがございましたらご記入下さい。

※ 夏期休暇中及び冬期休暇中に補習や合宿を実施されている学校がほとんどである。

※ 朝補習・放課後の補習など、時間を工夫されている学校が多くありました。

ウ 国家試験の模擬テストは実施されていますか？回数なども教えてください。(94校回答)

○業者の全国統一模試を受けさせている。(90) ○受けさせていない (4)

【模擬テストの実施回数】

・5回 (2) ・2～3回 (1) ・2年で2回・3年で2回 (1)
・4回 (30) ・2回 (40) ・2回(全員)+2回(希望者) (1)
・3回 (8) ・1回 (6) ・2年次から受検(回数未記入) (1)

エ 実技試験に向けての対策として実施されていることがありましたらご記入下さい。

※ 1次試験終了後(3年生は自由登校・自宅学習期間中)登校させて、ほとんどの学校が、自己採点の高得点者、又は、合格者を集めて補習・模試を実施している。

【その他の取り組み】

※ 日赤の看護師長さん・卒業生の施設職員等様々な方に講師を依頼。又、外部の県介護福祉士会に模擬試験を依頼したり、社協・専門学校等で実施されている研修会に参加させている学校も多くあった。

オ 第16回の国家試験から筆記試験免除が無くなりますが、それについてご意見をお願いします。(79校回答)

○免除規定を残してほしい。(57) ○免除を残してほしいが、やむを得ない。(7)

○やむを得ない。しかたがない。当然である。(13) ○その他 (2)

カ 介護福祉士国家試験受験に向けての教科書は何をお使いですか？(85校回答)

○介護福祉士養成講座を使用 (47)

○高校生シリーズを使用 (11)

○高校生シリーズ・介護福祉士養成講座を使い分けている (19) ○その他 (8)

【来年度からは検定教科書ができますが今後の予定も有れば・・・】

※ 15年度からは、検定教科書を主に使いながら、副教材として養成講座を従来通り使用の予定という学校が多くありました。(国試のことを考えると検定教科書では、内容が不十分か?)

キ 国家試験を受験する生徒と、受験しない生徒を、何らかの分け方をされていますか？(例：クラスを分ける等) (95校回答)

○分けている (12) ○分けていない (83)

ク 国家試験を受けないという生徒が出た場合の対応は、どうされていますか？又、何らかの制限をされていますか？ (95校回答)

○原則として全員受けさせる。(66) ○本人の希望を重視する。(29)

○制限をしている。(6) ○制限をしていない。(30)

4 その他、資格取得についてご意見等がございましたらお書き下さい。

※「学科主任等研究協議会資料」をご参照下さい。ご協力ありがとうございました。

コース・系列等設置校

<質疑応答および意見交換>

1 現場実習について

Q：実習目標としてコミュニケーションのとり方をあげているが、現場で働く人でもコミュニケーションをとることは難しい。高校生にこの高い目標を掲げるのはどうか。コミュニケーションに関する指導はどう行っているのか。(司会者)

A：施設の方に評価していただくのは、声の大きさや内容が適切か、言葉づかいや声かけ、態度は正しいか、相手の顔を見て、目線を合わせているかなどである。それらを含めた指導をしている。(和歌山 有田中央高)

Q：実習評価を通知票にどう使っているか。生徒の自己評価と実習施設の評価をどのようにつなげているか。(神奈川 川崎高)

A：p22に示すとおり、成績をだすために評価の割合を決めている。施設の評価については、各施設の評価基準を確認し、各施設の偏差をだし、そこから平均的な評価基準をだし、多少調整して施設の評価としている。生徒の自己評価については自分に甘い評価もあり、教員が本人とよく話し合っている。これがよい方法かどうかは分からないがそうしている。(和歌山 有田中央高)

2 資格取得について

Q：兵庫県でのヘルパー養成の要件は厳しい。実習は教員1人に対し生徒20人以下とあるが広島県はどうか。生徒の人数に対しどう対応しているか。また、兵庫県訪問介護員養成研修事業の講師要件について「福祉」の免許は要件になく役に立たない。外部講師がいない学校もあるが、広島県ではどうか。(兵庫 私立園田)

A：広島県では生徒20人で講師1人という指定があるがこれまでに20人を超えたことは1回だけ、21人で実施した。殆ど10人台である。来年度より20人を超えた場合は2クラスにする予定である。毎年、人数に差があり不安はある。広島県は福祉の免許があれば講師ができるというが、確認していない。(広島 吉田高)

Q：各都道府県で講師の要件や申請方法等に様々な違いがあるようだ。他県の状況を聞かせてほしい。また、担当教員の事務手続きも大

変だが、各校の取り組みはどうか。(司会者)

Q：本校は普通科と家政科があるが、単位制の普通科高校となる。今後どのような科目を取り入れたらよいか。他科の科目も選択可能の方がよいか。(岐阜 本巣高)

A：本校は4学科、他学科の科目は選択できなかった。平成13年度に総合選択制になり他学科の科目を選択可能とした。福祉科の生徒が農業関連科目をとることも可能である。ただし、普通科の生徒は資格(訪問介護員)をとれない。生活福祉科のみである。(広島 吉田高)

3 その他意見交換

Q：岐阜県で「福祉」の免許をもつのは家庭科の女性教員が多い。岡山県美作高の先生は3教科の免許をもっているというが、他県で「福祉」の免許をもつ教員の男女比と教科を教えてください。(岐阜 本巣高)

A：昨年、一昨年の現職教員講習会のデータで約8割が女性教員である。基礎免許は看護約40%、家庭約32%、地歴・公民約7%である。今後家庭の免許をもつ男性教員も増えるので男性の割合が増えるのではないかと。(上越教育大 大学院生)

Q：訪問介護員2級をとれる生活福祉科が今年より募集停止、普通科に福祉コースを残すことになった。単位数はだんだん減らされている。本校は進学率99%、進学指導の中、他の教員の理解を得られない。八尾町は高齢化率23%、地域社会のニーズも高い。福祉施設とつながりも深く、訪問介護員2級の養成停止がもったいない。普通科で3級課程をやりたいが事務手続き等は2級課程とさほど変わらない。福祉住環境コーディネーターの資格をとらせている学校もあるが他の資格はないか。また、普通科のコース制で何をやったらよいか。(富山 八尾高)

A：福祉住環境コーディネーターは、基礎学力があり自己学習で合格ボーダーラインの7割まではどうにかなる。本校生は中学時の評定が2.5から3.0位である。普段は部活動などがあるため、まず募集をかけ、夏休みに週2回、9月～10月の土日に登校させて補習を行う。実習の記録(文章)が書けない生徒には漢字検定、情報処理の授業でワープロを使うなど、他教科の協力も得て指導している。(神奈川 川崎高)

Q：岡山美作高で、資格はいらぬといふて実習を途中でやめた生徒がいた。今後もこういうケースがでてくると思うがどう指導していくか。当校では結局どうしたのか。

(上越教育大 大学院生)

A：本校は実習に全部出席しないと資格・単位をとれない決まりがある。それを本人と保護者に話した。本人は資格をとらず卒業した。本人が資格をとらないと言うとそれまでの、きちんと卒業し就職できるような指導をしている。(岡山 美作高)

Q：来年本校は教育実習生が3名来る。卒業生以外の他県の学生もいる。大学生受け入れの問題が生じている。進学校は大変ではないか。また、福祉コースが各学年に1クラスしかないし、6月と12月は実習がありどうしたらよいか。(岡山 美作高)

A：今年、卒業生以外の他県の大学生を教育実習生として受け入れた。生徒が大学に入った以上、教育実習生を受け入れ、介護職のほか教職養成の役割をしなければならない。本校の実習生の受け入れ期間は学校側の都合で3年生の実習がない6月末から7月にした。他教科の実習生と合わせ10名が来た。本校は総合学科で2学期制、生徒を6月中旬の考査のあと実習に出し、その後まとめの時期に実習生が入った。1回の授業で次に進むため、他教科の実習生に比べ教材研究に追われ大変だった。教育実習で何を体験させたらよいか、我々の役目は何かを考えさせられた。大学も福祉の教員養成が始まったばかり、異なるカリキュラムで教授法を学んだ者、そうでない者もいる中、教育実習の在り方や教員養成について大学と協力していかなければならない。

(山形 天童高)

<指導講評>

鈴木 尚美先生

(千葉県教育委員会学校指導部指導主事)

教科「福祉」ができたいきさつは、高齢社会となって社会のニーズが高まったからである。

家庭看護・福祉という科目が家庭科の中にあるがこれは家庭における介護について学ぶ科目であった。しかしそれだけでは社会のニーズに対応できなくなって、より専門的に介護や福祉を学ぶ必要性があり、教科「福祉」ができた。

教科「福祉」の役割は大きく分けると2つある。1つは専門家の人材を養成する部分ともう1つは福祉の心、例えば他人をいたわる心、老人を見たときにマイナスの思考で考えるのではなく、自分で何とかしてあげたいというような、プラスの思考で考えていけるような人材や心を育てていくことを目指すことである。

訪問介護員養成研修について実際、教育課程上におかれた福祉科目の中で、生徒に先生方が授業をされるのと平行したかたちで訪問介護員の養成研修を受けさせている現状がある。千葉県でも訪問介護員の養成研修を行っている。関係各部署との折衝で、向こうは向こうの立場があり、プロを養成するという部分があるので、高校の授業でやったことをイコールにするのは抵抗があるようだ。しかし、高校生なのだから、何とかそういう気持ちで入学してきた生徒がこれからの将来を担っていかなければならないのだから、それを大目に見てくれというわけではないが、こういう授業をやるからお願いしますというということで認められてきた。

高校生として教科の2つの土台のどちらをうちの学校はやるのかということをはっきりさせ、矢幅先生がよくおっしゃっているように、無理に訪問介護員の資格をとらせなくてもよいのではないかと、本質的な福祉の部分で「福祉の心」を学ばせるかたちでよいのではないかと。

実際に資格を取得しても登録を希望しない人も多い。単に研修だけでなく幅広い授業を受けた方が基礎的な力がつけられる。生徒の実態を見て教育課程を組んだらよいのではないかと。

全体報告会

平成14年11月1日(金) 9:30~10:50

古河第二高等学校 体育館2階 アリーナ

司会 床井 幸雄

(千葉県立松戸矢切高等学校長)

1 校長部会報告

埼玉県立不動岡誠和高等学校長

宇田川 努

各校からの質問を矢幅教科調査官に回答していただいた。

(1) 介護福祉士国家試験の合格率について

H13年度全体の合格率41.4%、福祉系高校(NHK学園を含む)42.1%、H12年度全体が45.9%福祉系高校49.9%といずれも福祉系高校生のほうが良かった。

(2) 福祉科のあり方について、家庭に関する学科に属するのとその他の学科としての独立ではどちらが有利か。

来年度家庭に関する学科に属して生活産業基礎の履修と介護福祉士の国試受験資格に必要な34単位の履修が必要となり、生徒の負担が増えてしまう。福祉科として独立すると、教員定数が4名に加配となる方向で要望を出していく。施設設備は1000㎡、従来の600㎡の約2倍、保育・福祉の基準金額も2倍に増額する方向で最終調整をしている。

各学校から各都道府県にそのような要望を出してそれから文部科学省に出していただければ、要望が通る可能性が高い。

来年の3月までに通さなければ、この先3年間は現状維持となるのでお願いしたい。

一般財源等地方交付税についても、福祉に関する学科を起すことによって、1.02から4.0近くまでとする方向になってきている。

(3) 福祉に関わる現職教員の研修機会について

新産業技術等指導者講習会の中に、新教科「福祉」の講座の拡充を求めている。1講座5日間各県1名程度の参加で30名程度の案を出している。

(4) 福祉に関する学科となり現在8名の教員がいるが、福祉の教員を増やすことができるか。

福祉に関する学科は現在県からの単独加配になっているが、今後国が加配を保障することになる。増員については文部科学省ではなく、各

県でなされるべきものである。

2 主任等の部会報告

岡山県ベル学園高等学校教諭

五十嵐 武

(1) 学科設置校分科会

ア 神奈川県川崎市立川崎高等学校・岡多枝子教諭による授業研究『「社会福祉制度」で『総合的な学習の時間』の試行』の発表について

社会福祉制度を2年生で2単位の位置づけ、年度初めに科目の目標、シラバス、評価基準について説明し、生徒の要望を聞いた上で授業を進めている。1学期中に社会福祉制度で学習する5項目全てをスパイラル的に教え、いくつかの学習課題を設定し、発表させている。

生徒の認識を深めさせるには、「スパイラル的学習」が効果的であるとの考えに基づいている。生徒の提出したテーマは、児童虐待の現状、ドメスティックバイオレンス防止法の内容、ホームレスの自立支援に関する法律について等である。これらの課題を行政機関に直接出向むいて学ばせ、報告会で発表する調査学習へと発展させている。それらの準備、報告会の進行を全て、生徒自身に考えさせている。生徒の変容として、実社会との関わりの中で、新鮮な発見をし、学ぶ意欲が高まったこと、不登校生徒がこの学習に参加する中で不登校を克服しつつあることなどが報告された。今後の課題として、誰でも取り組めるようなシステム化が必要であること、教員の研修を体系化、調査学習をゆとりを持って取り組めるような条件整備の必要等である。

イ 岡山県立倉敷中央高等学校・本多淳宏教諭による、資格取得「人間性豊かな介護福祉士の養成を目指して」の発表について

介護福祉士の資格取得を第一の目的にせず、福祉の勉強を深める中で最終的に資格取得に繋ぐ方針を立てて実践されている。

家庭科技術検定・食物、保育の3級、訪問介護員1・2級、福祉住環境コーディネーター3級等福祉関連の様々な取得に努めている。国家試験受験対策で気をつけていることは、クラス全体の雰囲気作りに努め、介護福祉士の資格をとりたいたいという気持ちにさせている。最後の模試成績不振者に対しては2学期末テスト後の補習、3学期放課後の10分間学習での重要語解説は点数アップに繋がっている。二次試験対策と

して一次試験後の補習の他に、見たい場面がすぐ探せる介護CD-Rの開発をした。現場に就職した卒業生による二次試験講習会等、効果的学習方法を工夫している。さらに介護事例研究の論文作成、学年を越えた生徒のコミュニケーションの方法として福祉科新聞を定期的に出している。その結果、生徒の進路も大半が福祉方面で、就職も求人が4倍を超えている状況である。

ウ 宮崎県立高原高等学校・石川加奈恵教諭による進路指導「宮崎県の現状と進路指導」

宮崎県全体の介護福祉養成校の福祉系進路選択者は3割～4割に対し、同校は6割以上の福祉職を目指す意識的な進路指導に努めている。しかし、県内での介護職における高校生の雇用状況はきわめて厳しく進路指導が図りにくい。そこで、どのような福祉人材が必要なのか、県内の老人福祉施設にアンケート調査し施設の希望する生徒像を書いてもらった。

- (ア) 福祉の心を育てる。
- (イ) 介護福祉士の資格を取得させる。
- (ウ) 社会性を養う。
- (エ) 実社会に対応できるようにする。

質疑内容として岡教諭へ「テストについて」「社会福祉演習とのからみについて」、本多教諭へ「高い進学率を維持している背景」「教員の指導体制」、石川教諭へ「他学科からの福祉への進路希望者の指導について」、また大学側からの参加者から「福祉科教員志望者の教育実習への高校側の要望について」等があった。

エ 指導助言(加藤路子 茨城県教育庁高校教育課指導主事)

介護は豊かな感性を持った者が担うべきで国試対策と感性を重視した教育の両立を図るようお願いしたい。

課題解決の力の向上が必要な今、体験を通じた総合的な学習が一層重視されるべきである。全生徒に求められている能動的態度を育てるには総合的学習、グループ学習が効果的である。教員が実践を共有化して福祉を学んで良かったと思える教育を実現していこう。

(2) コース・系列等設置校分科会
広島県立黒瀬高等学校教諭

矢野 実代子

ア 和歌山県立有田中央高等学校・名原伸子教諭による「社会福祉実習の取り組みと今後の課題」

総合学科の6系列の1つに福祉系列がある。介護福祉士国家試験受験資格が取得できる教育課程内容で生徒もほとんどが福祉施設に就職している。現場実習に対し、実施依頼、保険、保護者説明会、事前事後指導、評価等具体的な取り組み状況および生徒への意識づけ日常の挨拶・言葉遣い、基本的生活への指導、記録を確実にするための国語力を高める指導の重要性等々今後の課題についてレポートがあった。

イ 広島県立吉田高等学校・井上智恵教諭による「広島県訪問介護員養成研修事業実施校の現状と課題」

吉田高校生活福祉科の生徒ガイド、教育課程資格取得、進路、学科の課題と今後について、広島県内の訪問介護員養成研修実施校29校を対象としたアンケート調査結果の報告があった。福祉に関する学科等設置状況、広島県訪問介護員養成研修事業者指定要項運用基準等、その他多くの参考資料が提示された。

ウ 岡山県立美作高等学校・竹田吉彦教諭による「資格取得についてのアンケートのまとめ」

平成13年度加盟校全国179校中回答は145校のアンケート調査結果報告があった。広島県のアンケート調査結果と同様、資格取得について、現場で抱える課題、困難等日頃知りたいこと、悩んでいることが出された。都道府県での訪問介護員養成に関して講師や期間等、申請に大きな差があることがわかった。

以上3つのレポート発表後、「現場実習の評価について」、「現場実習での目標がコミュニケーションの場合の評価」「資格取得を放棄した生徒の対応」「訪問介護員や介護福祉士以外の資格取得」「教育実習生の受け入れ状況」「後継者の育成の重要性」等について意見交換があった。

エ 指導助言(鈴木尚美 千葉県教育委員会学校指導部指導主事)

福祉の教科の目標は専門性を持った人材の育成か、福祉の心を育てることとするのかを指導者がよく整理した上で、教育内容の整理をして今後自信を持って指導に当たって欲しい。

3 報告

(1) 家庭部会事務局

全国高等学校長協会家庭部会事務局長
小島 和雄

ア 当校長会の会員構成について
平成14年度の加盟校は、昨年より6校

減り2697校である。

イ 総会・研究協議会について

春の総会は東京で開催した。秋の総会は千葉で開催した。

ウ 家庭に関する専門学科(小学科)校長会の動向

エ 調査研究委員会等について

オ 家庭科講習会(愛知大会)について

カ 地区別校長会の動向

キ 家庭科教員の表彰について

今年は33名の家庭科教員を表彰することを決定した。

ク 平成14年度第50回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会について

50周年記念行事もかねて札幌で開催

ケ 第12回全国産業教育フェア

盛岡で開催され、家庭部会からは福祉部門の3件を含めて20件の作品が展示された。

コ 平成14年度(上半)家庭科技術検定受験申し込み状況

完全学校週5日制の導入による大きな変動はなかった。

(2) 福祉科事務局

群馬県立吾妻高等学校教諭

福原佐知子

ア 今年度の加盟校について

加盟校一覧を配布する。平成14年度の加盟校は昨年より13校増え、更に脱退校が3校あり189校である。

イ 会費納入について

来年度より、メールアドレスと資格取得の欄を追加する。記入をお願いしたい。

ウ 各部の活動状況報告

(ウ) 研修部

今年度から事例集の作成を予定している。平成14年度は「社会福祉基礎」、「社会福祉演習」、平成15年度は「基礎介護」、「社会福祉実習」、平成16年度は「社会福祉制度」、「社会福祉援助技術」の事例集の発行を考えている。今年度はCD-Rで配布の予定である。

(イ) 調査、研究部

全国福祉科高等学校基礎調査および福祉教育実態基礎調査を実施。全国の訪問介護員または介護福祉士国家試験受験資格の取得可能校153校中125校が回答。

(ウ) 広報部

「福祉系高校だより」を年2回発行している。

(エ) 第12回全国産業教育フェア

今年は、岩手大会に福祉部門として全国から3校が作品を展示した。

(オ) 今大会の報告について

今年度は2月28日に発行を予定している。

(カ) 報告事項

- ・教科書の編集
- ・全国大会の担当開催県
- ・福祉教育実践研究会
- ・各種研修会の紹介
- ・日本社会事業学校連盟とのかわり
- ・滋賀県立長浜高等学校教諭

水口 順子

「社会福祉教育への学際的協働」

- ・高校福祉科の現状
- ・筑波大学大学院人間総合科学研究科
- ・助教 徳田 克巳

「福祉」系高等学校における専門教育に関する調査報告—その実態と担当教師の意識について—

指導講評

平成14年11月1日(金) 11:00~11:50
古河第二高等学校 体育館2階 アリーナ
司会 床井 幸雄

(千葉県立松戸矢切高等学校)

文部科学省初中局参事官付教科調査官
矢幅 清司

1 公開授業

(1) 基礎介護

「ボディメカニクス」を活用したベッド上での実技授業であった。板書方法やプリントは、様々な工夫がされていて各校でそのまま活用できるものだった。使われていたプリントは順序性があり、ひとつひとつ解いていくと自分の介護を振り返ることができるようにもなっていた。

(2) 社会福祉実習

施設実習の「事後学習」。実習施設ごとにグループに別れ、生徒が体験した事例を基にロールプレイし、利用者と介護者それぞれの気持ちを

考えどのように行動するかを考える授業であった。施設実習を終えると生徒は我流で問題解決してしまいがちだが、この授業を通して他の生徒が何に戸惑い、何に疑問をもったのか、また何が大切で何を解決しなければいけないのかを共通理解することができていた。そして、次の実習に向けての新たな準備ができるようになっていた。

実習日誌についても生徒全員がしっかりと文章を書いていた。現在、高校生は文章が書けないといわれているが、それは教員が書くポイントだけを指導しているからではないだろうか、生徒に文章そのものを書かせ、教員が添削し再度書かせることで生徒に書くことを覚えさせてほしい。

(3) 社会福祉基礎

普通科における「社会福祉基礎」。内容的に理解が難しい福祉制度を普通科の生徒が身近に感じられるように「磯野家」を題材に使う工夫がされていたが、対象生徒が普通科の生徒だと考えると内容的に少し詳細過ぎた印象がある。施設実習や資格取得を目的にしている生徒に福祉科の授業をそのまま行っても生徒はついてこない。各校でも生徒の状況にあった授業内容の検討をしてほしい。

(4) まとめ

授業を行う上で学習主体が生徒であることを忘れないでほしい。授業では教師が主体となり生徒を一方向的に引っ張っていくことが多くなりがちであるが、生徒を学習主体としていかに生かすか、いかに引っ張っていく授業をするかを考える必要がある。その際、生徒を放任するのではなく生徒自身がより学びやすい環境・手法・内容を考えることが求められる。また、教員に求められていることが何かを再度考えてほしい。その一つは教員が教科書など今ある情報を生徒に合わせて加工し価値ある教材、魅力ある教材を作成し授業そのものをデザインすることではないだろうか。

2 介護福祉士の状況

平成13年度介護福祉士国家試験の高校生の合格率が42.1%、全体が41.4%。全体平均を上回っている。そして、福祉を学んだ生徒が興味を失わず、知識を身につけ、受験資格を持つ生徒の95%の生徒が国家試験を受験し、一次試験(筆記試験)で54%の生徒が合格している。合格率は学校間の差がかなり生じてきている。90

%以上の合格率を誇るのが3校、80%以上が3校、70%以上が7校あり、ここまでで福祉科高校全体の1割になる。その一方で合格率10%以下の学校が15校ある。数字が全てではないが結果を残している学校には敬意を表し、合格率が低い学校は情報交換等を行い教育の質の向上を図ってほしい。

3 介護福祉士国家試験

第15回介護福祉士国家試験から以下のことが変わる。①合格基準が設けられた。②出題基準が設けられた。③正答が公表される。④個々の得点を聞くことができる。以上の4点の変更点があるので各校で生徒の傾向を分析し、学校での指導を振り返って欲しい。

4 進路

高校で福祉を学んだ生徒の進路は、おおよそ進学と就職が50%ずつに別れ、進学のうち62%、就職のうち73%の生徒が何らかの形で福祉に関わる進路を選択している。これは高校で福祉を学び、福祉を魅力あるものと感じることができている証明である。先生方にはこれからも生徒の進路を広く考えつつ福祉に魅力を見出すような指導を継続的に行っていただきたい。

5 「福祉」の教員養成

(1) 大学における教員養成

教科「福祉」の課程を設置しているのは全国で108大学152課程であり、通信制も4大学で始まった。今後の課題としては大学で「福祉」の免許を取得したものが免許を生かした就職ができるかどうかである。人材養成のためにも高校と大学の情報交換も積極的に行う必要がある。

(2) 資格認定試験

平成12年から平成14年までの3年間に限り行われてきた。平成12年は226名が受検し43名が合格。平成13年は1008名が受検し114名が合格。平成14年は726名受検したが今年はかなり合格率が下がる見込みである。

(3) 現職教員の講習会

平成12年から14年までの3年間行われ今年で終了した。各都道府県の計画では1802名の「福祉」の教員が必要とされていたが、講習会で1500名の教員を養成し達成率としては84%となり、ほぼ満たされていると考えている。都道府県別の充足率は159%~60%と差はあ

るが、教員の採用等で充足すれば大きな問題はないと考えている。

6 現職教員の研修

教科「福祉」をすすめるにあたって一番大切なことは制度や施設ではなく人材の養成である。様々な研修等を通じて教員の質的な向上をはかっていきたいと考えている。文部科学省では来年度より福祉に関する講習をもつことを予定している。受講定員が30名の5日間を予定である。これまで養成された1500名の教員は授業の担当者であり、今回の講習会は各都道府県のリーダーとなる人の講習会と考えている。開催場所は受講希望の人数によって東と西に分けて2箇所で開催する可能性もある。また、国単位で行う研修はこれ一つであるが各都道府県、学校単位でも研修会を開いたり各種学会や研修講座に参加し授業研究、教材研究をすすめ自己研鑽してほしい。

7 施設設備と教員定数

産業施設等に関しては現行の30ユニットの大枠を変えずにすすめているが、内容の見直しをして施設等の充実を図っている。教員定数の配分はまだ折衝中であるが、衛生看護科並みの要求をしている。また各都道府県で福祉に関する学科を設置しているとなれば、教員定数も現在よりも加配されるはずであり、予算的にも一般財源の中の地方交付税も上積みされるので活用してほしい。

8 研究指定校

評価基準の模範となるものを置戸高校(北海道)長浜高校(滋賀)黒瀬高校(広島)の3校に依頼している。評価基準案と内容の検討をしてもらっている。今年度末に第一次のまとめ、来年度には最終報告がでてくるのでそれらを参考に各都道府県、各学校での評価基準をつくってほしい。

9 最後に

法律や制度が整い、福祉科の学習指導要領や教科書ができたからといって安泰ではない。教員がその制度等を活用して良い授業、良い福祉科をつくる努力を忘れないでほしい。また、ハード面(環境)は整い始めたが、大事なソフト面(人)である。知識の詰め込みをするだけでなく、福祉のこころをもった人を育てて欲

しい。福祉全体でも環境が整ったから良いサービスができるのではなく人によって初めて環境が生かされ良いサービスが提供できる。これからも先生方の努力の継続を期待している。

閉会行事

平成14年11月1日(金) 11:50~12:20
古河第二高等学校 体育館2階 アリーナ
司会 奈良部 貢
(栃木県立田沼高等学校長)

1 開会のことば

茨城県立八千代高等学校長 鈴木 忠司

2 主催者あいさつ

全国福祉科高等学校長会会長 高橋 照夫
全国各地から校長先生、学科主任の先生方の参加のもと開催でき、多くの成果を得ることができた。各都道府県で高等学校再編計画の進んでいる中、高等学校での福祉教育の指導の充実がさらに求められていると思われる。この二日間で協議した福祉に関する事柄を、各学校でまた各地域でさらなる実践をされることを期待する。

今後は、教育活動や卒業時の進路指導を充実させ、三年間安心して高校生活が過ごせるように考えていく必要がある。各学校において、福祉の発展を願う人材の育成について多方面から創意工夫をし、社会や生徒の期待に添う指導の展開に努めて頂きたい。

3 次回主管校あいさつ

大分県立野津高等学校教頭 安部 真彦
野津高等学校は、1学年2クラスの福祉科単科の専門高校で、「福祉私達の手で」という志しを持った高校生が集まっている学校である。先生方をお迎えし、実りある第9回の大会を開催したいと考えている。

4 主管校あいさつ

茨城県立古河第二高等学校長 上野 孝雄

5 閉会のことば

茨城県立八千代高等学校長 鈴木 忠司

茨城大会を終えて

—全校あげての手作り大会を目指して—

主管校 茨城県立古河第二高等学校
校長 植野孝雄

第8回大会は、北は北海道から、南は沖縄まで全国各都道府県の福祉関係の先生方118校207名の参加のもとに、盛大に開催され、心より感謝申し上げます。多少のミスはあったものの、予定通り全日程を消化し、おおむね成功と自負しております。

今年は関東地区が当番ということで、関東地区の福祉関係加盟校の先生方に、一人一役を合言葉に全面的な協力を得て、茨城県古河市で開催することができました。

人口6万の古河市は、栃木・群馬・埼玉の県境にあり、北西に渡瀬遊水池等自然環境に恵まれておりますが、人口が少ないために大きなホテルもなく、宿舎が栃木県に分散し、会場が本校中心のために普通科の授業と平行して実施しましたので、皆様方には大変ご迷惑をおかけしました。

茨城インターハイと平行して準備を進めてまいりましたが、本格的には2ヶ月足らずの中で大変忙しい日々でありました。しかし主管校を引き受けさせていただき、本当に良かったと感謝しております。なぜなら、本校の福祉科の先生方を中心に、先生・生徒・同窓会そして近隣の高校・筑波大学の協力・応援をいただき、茨城インターハイの看板の再利用・サルビアの花などの飾りつけ等「手作り大会・真心をこめた大会」そして「きっとみつかる きっとひろがる」のスローガンのもとに学校をあげて取り組めたことが大きな収穫であったからです。今大会を振り返り、予算をどうするか。会場をどこにするかなど頭を痛めました。その結果

- ①大会運営費の節約の上から主管校の会場利用が望ましい。
- ②次期開催校へは、FD・名札・リボン等の引き継ぎにより再利用が望ましい。
- ③全国福祉科校長会事務局・全国家庭科事務局との、綿密な事前の打ち合わせの必要性を痛感いたしました。

最後になりましたが、文部科学省・厚生労働省・茨城県教育委員会等関係者の皆さんに厚くお礼申し上げます。来年は大分県野津高校で開催されます。皆さんとの再会を楽しみにしております。

大会を振り返って

茨城県立古河第二高等学校
教養福祉科主任 萩原明子

この度の茨城大会につきましては、関東ブロックの校長先生をはじめ諸先生方に大変お世話になり、また全国の役員の方の校長先生、学科主任の先生方のご協力のお陰で無事終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年は大会の3日間を全て本校で行うという今までにない開催方法でしたので、会場設営は上手くいくのか。そして、何より全国の先生方に満足していただける授業公開はできるのか等、多くの不安とプレッシャーがありました。

夏休み明けから本格的に準備が始まり、大会まで予想以上に忙しい日々が続きました。授業公開にあたっては、3年生の現場実習と重なってしまうため、担当教員との関係もあり公開できる授業は限られていましたが、何か少しでも新しい視点の授業展開ができるようにと教科会で何度も話し合い検討し、各担当教員が何度も何度も練り直し作り上げました。

また、夏に開催された茨城インターハイの流れもあり、参加される先生方に本校で栽培したラベンダーの香りを届けようと福祉科の生徒と共に準備を進めました。

そして、大会当日は、心配していた公開授業も緊張しながらも生徒がいきいきと取り組んでいる姿を垣間見ることができ、参加された先生方からいろいろ勉強になったとの声もきかれ、ほっと致しました。

こうして、今回の大会を振り返ってみると、多くの先生方に支えられ、生徒の力に支えられた大会だったと思っております。そして私たち教員の研修の大切さや全国の教員同士のネットワークを密にすることの必要性を再認識致しました。至らない所もあったとは思いますが、本校からの「きっとみつかる、きっとひろがる」のメッセージどおり、各先生方が来年からの新教科「福祉」の実施に向けて、熱き思いで何かを見つけてお帰りになったことと思っております。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約

平成 7年10月12日施行
平成10年 7月23日改正
平成11年10月21日改正
平成14年10月31日改正

(総則)

- 第1条 本会は全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会と称する。
第2条 本会は全国高等学校長協会家庭部会の研究協議機関として、福祉科教育の振興を図ることを目的とする。

(組織)

- 第3条 本会は全国の福祉科（福祉科に準ずる）を置く高等学校の校長で組織する。
第4条 本会は次の地区を設ける。
1、北海道地区
2、東北地区
3、関東地区
4、北信越地区
5、東北地区
6、近畿地区
7、中国地区
8、四国地区
9、九州・沖縄地区

(事業)

- 第5条 本会の目的を達成するために年1回の総会・研究協議会を開催するほか、研究活動、広報活動等を行い、また学科主任の連絡、情報交換、研究協議等の事業を行う。

(役員)

- 第6条 前条の事業を行うために本会の次の役員を置く。
1、会長 1名
2、副会長 1名
3、理事 各地区1名
4、監事 2名
第7条 役員は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たる。
第8条 役員を選出方法は次のとおりとする。

- 1、理事は各地区ごとに総会で選出する。
- 2、会長は理事の互選とする。
- 3、監事は会長が委嘱する。
- 4、副会長は会長が委嘱し理事を兼ねることができる。
- 5、会長所属地区からは、新たに理事を選出できる。

- 第9条 役員任期は2年とする。但し再任は妨げない。
第10条 本会の事務局は会長高等学校に置く。

(会計)

- 第11条 本会の経費は会員の会費で支弁する。
会費は年額5,000円とする。

(付則)

- 第12条 この規約は平成7年10月12日から施行する。

平成13～14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員

役職	地区	氏名	学校名	都道府県
会長		高橋照夫	県立吾妻高等学校	群馬県
副会長・理事		外山茂樹	函館大妻高等学校	北海道
理事	東北	天田武邦	宮城県村田高等学校	宮城県
理事	関東	植野孝雄	県立古河第二高等学校	茨城県
理事	北信越	立川克雄	県立八海高等学校	新潟県
理事	東海	吉田昌弘	県立吉田高等学校	静岡県
理事	近畿	北川貢造	県立長浜高等学校	滋賀県
理事	中国	澤山義久	県立黒瀬高等学校	広島県
理事	四国	鳥羽俊明	県立小松島西高等学校	徳島県
理事	九州・沖縄	荒木修	菊池女子高等学校	熊本県
監事		古稻勝彦	県立大間々高等学校	群馬県
監事		宇田川努	県立不動岡誠和高等学校	埼玉県

平成13～14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会組織分担表

(1) 研修部 授業(指導書)研究	(2) 調査研究部 全国基礎調査	(3) 広報部 各校の近況・福祉情報
校長部会 外山茂樹 (北海道・函館大妻高等学校長)	校長部会 北川貢造 (滋賀・長浜高等学校長)	校長部会 吉田昌弘 (静岡・吉田高等学校長)
学科主任会 野村久子 (北海道・函館大妻高等学校)	学科主任会 水口順子 (滋賀・長浜高等学校)	学科主任会 松永光司 (静岡・吉田高等学校)
小杉直美 (新潟・八海高等学校)	小川義光 (青森・東奥高等学校)	小林逸元 (長野・上田千曲高等学校)
富井恵子 (三重・上野商業高等学校)	奥山弘実 (北海道・置戸高等学校)	日吉ふく子 (宮城・村田高等学校)
五十嵐武 (岡山・ベル学園高等学校)	萩原明子 (茨城・古河第二高等学校)	中村巴 (熊本・菊池女子高等学校)
稲村桂子 (徳島・小松島西高等学校)	黒田京子 (広島・黒瀬高等学校)	
事務局 福原佐知子・浦田美保 (群馬・吾妻高等学校)		

平成14年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校について

全国福祉科校長会加盟校の推移

平成15年2月28日現在

地区	H6年	H7	H8年	H9年	H10年	H11年	H12年	H13年	H14年
北海道	4	4	4	5	5	5	5	5	5
東北	13	12	17	18	20	21	24	25	26
関東	12	13	14	15	15	21	21	22	29
北信越	4	6	10	13	14	15	15	15	14
東海	5	5	6	7	12	14	16	16	20
近畿	6	7	9	10	11	10	11	17	17
中国	7	9	11	13	18	17	18	19	18
四国	2	2	5	5	9	9	10	10	10
九州・沖縄	13	16	22	25	30	35	44	50	51
全国	66	74	98	111	134	147	164	179	190

地区別・構成都道府県別加盟校数

地区	構成都道府県	加盟校数
1 北海道	北海道 (5)	5
2 東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島 (3) (7) (3) (5) (4) (4)	26
3 関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 山梨 東京 神奈川 (3) (3) (10) (2) (2) (1) (3) (5)	29
4 北信越	新潟 富山 石川 福井 長野 (5) (3) (3) (2) (1)	14
5 東海	静岡 愛知 岐阜 三重 (7) (4) (6) (3)	20
6 近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 (4) (2) (3) (5) (2) (1)	17
7 中国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 (0) (4) (8) (3) (3)	18
8 四国	高知 徳島 香川 愛媛 (2) (2) (2) (4)	10
9 九州・沖縄	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄 (12) (4) (2) (8) (7) (6) (10) (2)	51
全国	計	190

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会総会・
研究協議会並びに学科主任等研究協議会会場地区一覧表

ブロック 回・年度	北海道 東北	関東 甲信越	東北 近畿 東海 静岡・三島高	中国 四国	九州 沖縄
1 平成7年			東海 静岡・三島高		
2 平成8年	北海道 釧路星園高				
3 平成9年		北信越 福井・大野東高			
4 平成10年					九州 宮崎・門川農業高
5 平成11年				中国 岡山・ベル学園高	
6 平成12年			近畿 兵庫・新宮高		
7 平成13年	東北 岩手・一関第二高				
8 平成14年		関東 茨城・古河第二高			
9 平成15年					九州 大分・野津高
10 平成16年				四国 徳島・小松島西高	

次期（平成15年度）全国福祉科高等学校長会総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会

開催期日 平成15年10月29日（水） 役員会

（予定） 10月30日（木） 大会第1日目

10月31日（金） 大会第2日目

会場地区 九州地区

主管校 大分県立野津高等学校

全国大会主任等研究協議会分科会分担

地区 回・年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州 沖縄
1 平成7年			松戸矢切高	田鶴浜高	三島高		岡山女子高		
2 平成8年	釧路星園高	一戸高 東奥学園高							
3 平成9年			松戸矢切高 高浜高	金沢伏見高			久賀高 美作高		杉森女子高
4 平成10年			真岡北陵高 八千代高		静岡女子高				陽明高
5 平成11年		山辺高	御宿高		高浜高	福知山 淑徳高			
6 平成12年		①七戸高 ②光南高	②古河第二高 ③不動岡 誠和高		④上野商 業高	①日高高		③北条高	④加治木 女子高
7 平成13年	①置戸高	②西和賀高		③八海高	④古知野高				
8 平成14年			①川崎高			②有田中央	③吉田高 ③倉敷中央 ③美作高		④高原高
9 平成15年	④	③		②					①
10 平成16年			②		③	④	① 又は	①	

※ ・分科会テーマは次の4つとする。

①授業研究 ②現場実習 ③資格取得 ④進路指導

・①主管ブロック校が担当する

・分科会テーマは継続性を有するものとする。

平成14年度

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧

平成15年3月1日現在 (○は今回参加校)

No	立	学校名	〒	住	所	e-mail	校長名	介護士資格
		学科名・コース・類型		TEL/FAX			学部主任名	訪問介護員
①	道	置戸 生活福祉科	099-1112	常呂郡置戸町置戸256-8	0157-52-3263/0157-52-3263	oketokoukou@town.oketo.hokkaido.jp	奥寺 仁子	○
②	村	留寿都 農業福祉科 農業福祉コース	048-1731	虻田郡留寿都村字留寿都179-1	0136-46-3376/0136-46-3386	なし	山田 直芳	○
③	市	釧路星園 教養福祉科 福祉コース	085-0806	釧路市武佐4-28-10	0154-46-1538/0154-46-1941	なし	富田 俊江	○
4	町	剣淵 農業・生活科 生活福祉コース	098-0323	上川郡剣淵町栄町6215	016534-2549/016534-2694	kenko@eolas-net.ne.jp	阿部 剛康	○
⑤	私	函館大妻 福祉科	040-0002	函館市柳町14-23	0138-52-1890/0138-52-1892	otsumajh@mssl.ncv.ne.jp	畑 満	○
⑥	県	七戸 総合学科 福祉サービス系列	039-2516	上北郡七戸町字館野47-31	0176-62-4111/0176-62-4112	shichinohe-h@asn.ed.jp	相倉早智子	○
⑦	私	東興学園 福祉科	030-0821	青森市勝田2-11-1	017-775-2121/017-775-2137	ko-hohu@kh.hachinohe-u.ac.jp	外山 茂樹	○
⑧	私	光星学院 保育福祉科 福祉コース	031-8507	八戸市湊高台6-14-5	0178-33-4151/0178-35-6287	nisiwaga@nnet.ne.jp	野村 久子	○
⑨	県	西和賀 普通科 福祉・情報コース	029-5503	和賀郡湯田町湯田19-25-2	0197-84-2809/0197-84-2844	shichinohe-h@asn.ed.jp	佐藤 孝夫	○
⑩	県	一関第二 福祉教養科	021-0041	一関市赤荻字野中23-1	0191-25-2242/0191-25-5432	kujinorin@kua-h.iwate-ed.jp	一戸 淑子	○
⑪	県	久慈農林 福祉教養科	028-0021	久慈市門前36-10	0194-53-4371/0194-53-2540	admin@inh-h.iwate-ed.jp	高橋 富男	○
⑫	県	一戸 福祉科	028-5312	二戸郡一戸町一戸字時前60-1	0195-33-3042/0195-33-2777	tateyama@iyd-h.iwate-ed.jp	阿部也寸志	○
13	県	岩谷堂 総合学科 福祉サービス系列	023-1122	江刺市館山4-47	0197-35-1911/0197-35-4677	info@morioka-schole-h.ed.jp	長岡 一恵	○
14	私	盛岡スコーレ 総合学科 福祉サービス系列	020-0851	盛岡市向中野字才川2-3	019-636-0827/019-636-0830	ganjo@rmac.ne.jp	澤野 桂子	○
⑬	私	岩手女子 福祉教養科	020-0025	盛岡市大沢川原1-5-34	019-623-6467/019-652-3327		佐藤 浩子	○

⑭	宮	村田 総合学科 社会福祉系列	989-1305	柴田郡村田町大字村田字金谷1	0224-83-2275/0224-83-2276	muratab_h@sn.myswan.ne.jp	天田 武邦	○
⑮	県	迫桜 総合学科	989-5502	栗原郡若柳町川南戸ノ西184	0228-35-1818/0228-35-1822	hakuou_h@sn.myswan.ne.jp	日吉ふく子	○
⑯	私	明成 普通科 介護福祉コース	981-8570	仙台市青葉区川平2-26-1	022-278-6131/022-277-5130	meiseih.s@pop09.odn.ne.jp	河野 春子	○
19	県	大館桂 普通科 家庭福祉コース	017-0876	大館市餅田2-3-1	0186-49-1010/0186-49-1011	katurahs@green.ocn.ne.jp	小島 信弥	○
20	県	雄勝 普通科 福祉コース	019-0112	雄勝郡雄勝町下院内字小白岩197-2	0183-52-4355/0183-52-4356	katiko@yutopia.or.jp	横山 芳枝	○
21	県	増田 総合学科 生活福祉系列	019-0701	平鹿郡増田町増田字一本柳137	0182-45-2073/0182-45-2088	masuda-high@topaz.ocn.ne.jp	永井 高道	○
22	県	湯沢北 生活科学科 福祉コース	012-0823	湯沢市湯ノ原2-1-1	0183-73-5168/0183-73-5169	なし	田山 妙子	○
⑳	給	公立合川 介護福祉科	018-4221	北秋田郡合川町下杉字中島54-2	0186-78-3177/0186-78-3178	aikawac@kumagera.ne.jp	小松田克己	○
㉑	県	山辺 福祉科	990-0301	東村山郡山辺町大字山辺3028	023-664-5132/023-664-5545	info@yamanobe-h.ed.jp	柴田美樹子	○
25	県	庄内総合 総合学科 福祉系列	999-7707	東田川郡余目町大字廿六木字三ツ車8	0234-43-2138/0234-43-3786	info@shonaisogo-h.ed.jp	九嶋 賢鋭	○
26	県	鶴岡中央 総合学科 社会福祉系列	997-0017	鶴岡市大字大宝寺字日本国410	0235-25-5724/0235-25-5734	rumiko-okuyama@tendo-h.ed.jp	庄司 聰子	○
㉒	県	天童 総合学科 保健福祉系列	994-0021	天童市大字山元850	023-653-6121/023-653-6188	school@kohnan-h.fks.ed.jp	石塚 寛	○
28	県	光南 総合学科 福祉介護系列	969-0227	西白河郡矢吹町田町532	0248-42-2205/0248-44-3373	school@	佐藤 勇一	○
㉓	県	川口 普通科 福祉コース	968-0011	大沼郡金山町大字川口字蛇沢2434-2	0241-54-2154/0241-54-2240	kawaguchi-h.fks.ed.jp	穴倉 博明	○
30	県	船引 普通科 福祉コース	963-4398	田村郡船引町大字船引字石崎15-3	0247-82-1511/0247-82-5233	hune-zyo@osaka.ne.jp	武田 充興	○
31	県	小野 総合学科 福祉教養系列	963-3401	田村郡小野町大字小野新町字宿ノ後63	0247-72-3171/0247-72-6211	school@ono-h.fks.ed.jp	佐藤 暢芳	○
㉔	茨	古河第二 教養福祉科	306-0024	古河市幸町19-18	0280-32-0444/0280-31-6602	koga2@koga2-h.ed.jp	菊地 善教	○

茨城	八千代 総合学科 社会福祉系列	300-3561	結城郡八千代町平塚4824-2 0296-48-1836 / 0296-48-3201	鈴木 忠司 ○ 潮田 巧巳 2級
栃木	大子第二 普通科 福祉コース	319-3521	久慈郡大子町北田気662 02957-2-0147 / 02957-2-1301	松本 弘明 2級 石川 厚子 2級
群馬	真岡北陵 教養福祉科	321-4415	真岡市下薮谷396 0285-82-3415 / 0285-83-4634	高根沢久岡 ○ 猪瀬由美子 1.2級
栃木	塩谷 社会福祉科	329-2332	塩谷郡塩谷町大宮2579-1 0287-45-1101 / 0287-45-0986	岸野 稔 ○ 飯村 節子 1.2級
栃木	田沼 社会福祉科	327-0312	安藤郡田沼町栃本300-1 0283-62-3411 / 0283-62-8404	奈良部 貴 ○ 鈴木 洋子 1.2級
群馬	新田 総合学科 福祉サービズ系列	370-0347	新田郡新田町大根999 0276-57-1056 / 0276-57-3953	一ノ瀬忠雄 ○ 北澤 明子 2.3級
群馬	渋川青翠 総合学科 生活文化系列	377-0000	渋川市折原3912-1 0279-24-2320 / 0279-24-9543	横堀 剛毅 3級 名塚 康恵 3級
群馬	大間々 普通科 福祉生活	376-0102	山田郡大間々町桐原193-1 0277-73-1611 / 0277-72-4212	古稻 勝彦 3級 本村 幸子 3級
群馬	万場 普通科 福祉サービズコース	370-1503	多野郡万場町生利1549-1 0274-57-3119 / 0274-57-2453	武藤 茂 2級 増山乃利子 2級
群馬	太田西女子 家政科	373-0844	太田市下田島町1243-1 0276-31-0511 / 0276-31-8921	山崎 米子 3級 松井 淳子 3級
群馬	吾妻 福祉科	377-0894	吾妻郡吾妻町大字原町192 0279-68-2334 / 0279-68-2747	高橋 照夫 ○ 福原佐知子 2級
群馬	藤岡北 ヒューマン・サービズ科 園芸福祉コース	375-0017	藤岡市篠塚90 0274-22-2308 / 0274-22-6741	矢端亀久男 2級 櫻井 裕泉 2級
群馬	吉井 総合学科 豊かな生活をデザインする	370-2104	多野郡吉井町大字馬庭1478-1 0273-88-3511 / 0273-88-2298	栗原 健 3級 飯塚 知子 3級
群馬	玉村 普通科	370-1134	佐波郡玉村町与六分14 0270-65-2309 / 0270-64-1870	小林 敏夫 3級 荒井美千子 3級
群馬	桐生第一 家政科 福祉教養系	376-0043	桐生市小曾根町1-5 0277-22-8131 / 0277-22-8134	高橋 昇 2.3級 杉山 雅宏 2.3級
群馬	不動岡誠和 社会福祉科	348-0024	羽生市大字神戸706 048-561-6651 / 048-560-1051	宇田川 努 ○ 佐藤 恵子 1級
群馬	彰華学園 普通科 技能連携コース	345-0015	北葛飾郡杉戸町大字並塚1642 0480-38-1810 / 0480-38-2976	遠藤 あき ○ 釜田 和文 1.2級

千葉	松戸矢切 福祉教養科	271-0095	松戸市中矢切54 047-368-4741 / 047-368-4396	床井 幸雄 ○ 佐藤 知行 1.2級
千葉	御宿 普通科 福祉教養コース	299-5102	夷隅郡御宿町久保1528 0470-68-2911 / 0470-68-6886	古山 豊 2級 服部 順子 2級
東京都	大泉学園 普通科 福祉コース	178-0061	練馬区大泉学園町9-1-1 03-3924-3185 / 03-3924-9411	佐々木孝志 2級 前田 朋乃 2級
東京都	南 普通科 生活・科学コース	143-0027	大田区中馬込3-11-10 03-3774-0373 / 03-3774-0325	川崎 明未 田村 祥子
東京都	日本女子体育大学体育学部附属二階堂 普通科 福祉コース	156-0043	世田谷区松原2-17-22 03-3322-9151 / 03-3322-9813	氏家 武彦 ○ 吉永 昌司 2級
東京都	綾瀬西 普通科 福祉教養コース	252-1123	綾瀬市早川11485-1 0467-77-5121 / 0467-76-8199	鈴木 理 松永 利光
東京都	高浜 普通科 福祉教養コース	254-0805	平塚市高浜台8-1 0463-21-0418 / 0463-23-7138	伊藤 伸子 山口 卓
東京都	津久井 普通科 社会福祉コース	220-0209	津久井郡津久井町三ヶ木272-1 042-784-1053 / 042-784-7960	岡本 弘之 ○ 井上 京子 1.2級
東京都	川崎 福祉科	210-0806	川崎市川崎区中島3-3-1 044-244-4981 / 044-211-8295	内田 一洋 ○ 横田 智子 1.2級
東京都	横浜清風 普通科 社会福祉コース	240-0023	横浜市保土ヶ谷区岩井町447 045-731-4361 / 045-716-0202	安達 真識 ○ 安田 節子 2級
東京都	八海 福祉科	949-6632	南魚沼郡六日町大字余川1276 0257-72-3281 / 0257-72-8878	立川 克雄 ○ 小杉 直美 2級
東京都	高田北城 生活文化科 福祉コース	943-8525	上越市北城町2-8-1 0255-22-1164 / 0255-26-1579	野内 清忠 2級 池永 佳子 2級
東京都	新井 総合学科 福祉系列	944-0031	新井市田町1-10-1 0255-72-4151 / 0255-72-7529	吉原喜久雄 菊間 正恵
東京都	西川竹園 生活文化科 福祉コース	959-0421	西蒲原郡西川町大字鱸2-1 0256-88-3131 / 0256-88-2172	小野 敏夫 中川 裕輝 2級
東京都	中越 普通科 福祉医療系	940-8585	長岡市新保町1371-1 0258-24-0203 / 0258-24-0205	渡邊 昌雄 2級 諸橋 益雄 2級
東京都	八尾 生活福祉科 福祉コース	939-2376	婦負郡八尾町福島213 076-454-2205 / 076-454-5999	仙石 正三 2級 中松栄里子 2級
東京都	となみ野 総合福祉科	932-0114	小矢部市清水95-1 0766-61-2040 / 0766-61-8255	高本 成一 ○ 小谷真智子 2級

67	富山県	有磯 生活福祉科 福祉類型	935-0025	水見市鞍川1056 0766-74-0229/0766-74-0827	ariso-hs@tym.ed.jp	伊藤 保 梶 晶子	2級
68	石川県	金沢伏見 普通科 人間福祉コース	921-8044	金沢市米泉町5-85 076-242-6175/076-242-7458	fushimi@educet.plala.or.jp	塚本 誠一 峯 純子	○ 1.2級
69	石川県	田鶴浜 健康福祉科	929-2195	鹿島郡田鶴浜町上野ヶ丘59 0767-68-3116/0767-68-2351	taturh01@ishikawa-c.ed.jp	本多 一憲 永井 和美	○ 1.2級
70	石川県	柳田農業 生活科学科 介護福祉コース	928-0331	鳳至郡柳田村字柳田1部3 0768-76-1211/0768-76-0079	seishh01@mx. ishikawa-c.ed.jp	近藤 哲史 高宮 恵子	2級
71	石川県	大野東 福祉教養科	912-0016	大野市友江9-10 0779-66-4610/0779-66-5577	info@oonohigashi-h.ed.jp	高氏 克彦 中村由美子	○ 1.2級
72	石川県	啓新 福祉科	910-0017	福井市文京4-15-1 0776-23-3489/0776-21-2922	seika@keishin.ed.jp	萩原 芳昭 定兼 絃美	○ 1級
73	山梨県	甲府城西 総合学科 福祉・生活科学系列	400-0064	甲府市下飯田1-9-1 055-223-3101/055-223-3103	kohujs-k@pref.yamanashi.jp	渡辺 明 庄司 美和	3級
74	長野県	上田千曲 生活福祉科	386-8585	上田市大字中之条626 0268-22-7070/0268-23-5370	uch06@nagano-c.ed.jp	飯島彦太郎 高橋加代子	○ 2級
75	長野県	大垣桜 福祉科	503-0103	安八郡墨保町上宿465-1 0584-62-6131/0584-62-5608	gif83031@gdpec.smile. pref.gifu.jp	山本 順子 渡辺美智子	○ 1級
76	岐阜県	坂下女子 生活文化科	509-9232	恵那郡坂下町坂下624-1 0573-75-2163/0573-75-4011	saka-hs@takanet.or.jp	伊藤 昭生 岩田 知子	2.3級
77	岐阜県	瑞浪 生活福祉科	509-6196	瑞浪市土岐町7942 0572-68-4161/0572-67-1988	c27329@gifu-net.ed.jp	千早 保之 遠藤 浩代	2.3級
78	岐阜県	海津北 生活福祉科	503-0321	海津郡平田町今尾3885-2 0584-66-2142/0584-66-2972	c27385@gifu-net.ed.jp	伊藤 正毅 伊藤 幸子	2.3級
79	岐阜県	本巣 家政科	501-0407	本巣郡糸貫町仏生寺859-1 058-324-1201/058-323-0651	c27308@gifu-net.ed.jp	新井 勝 今村 敏美	3級
80	岐阜県	高山 健康福祉科	506-0052	高山市下岡本町2000-30 0577-32-5320/0577-32-5321	gif83119@gdpec.smile. pref.gifu.jp	下畑 吉彦 岩佐 和美	○
81	静岡県	吉田 福祉科	421-0303	榛原郡吉田町片岡2130 0548-32-1241/0548-32-7831	office@yoshida-h. shizuoka-c.ed.jp	吉田 昌弘 松永 光司	○ 1.2級
82	静岡県	熱海 普通科 福祉類型	413-0102	熱海市下多賀1484-22 0557-68-3291/0557-68-1854	office@atami-h. shizuoka-c.ed.jp	小澤 文郎 中田 真希	2級
83	静岡県	磐田北 福祉科	438-0086	磐田市見付2031-2 0538-32-2181/0538-37-8354	office@iwatakita-h. shizuoka-c.ed.jp	沼倉 昇 伊藤 秀子	○ 2級

84	静岡県	富士宮東 福祉科	418-0022	富士宮市小泉1234 0544-26-4177/0544-26-0007	office@fujinomyahigashi-h. shizuoka-c.ed.jp	佐藤 玲子 船津 倫子	○ 1級
85	静岡県	三島 福祉科	411-0944	駿東郡長泉町竹原354 055-975-0035/055-976-0735	mishimakoko-j@thn.ne.jp	小崎 祥道 松本 寿子	○ 1級
86	静岡県	静岡女子 福祉科	422-8076	静岡市八幡3-6-1 054-285-2274/054-282-2757	shizuok-joshi@nifty.com	竹中 堯 太田久巳子	○ 1級
87	静岡県	沼津中央 普通科 人間福祉コース	410-0033	沼津市杉崎町11-20 055-921-0346/055-924-7158	k-hirano@n-choo.ac.jp	桐山 敏雄 平野 謙	2.3級
88	静岡県	高浜 福祉科	444-1311	高浜市本郷町1-6-1 0566-52-2100/0566-52-7059	takahama-ko@pref.aichi.lg.jp	加藤 泰男 神谷 千尋	○ 1級
89	静岡県	宝陵 生活福祉科	441-1205	宝飯郡一宮町大字大木字鱧水445 0533-93-2041/0533-93-2826	kkl-mas@horyo-h. aichi-d.ed.jp	仲島 千恵 野澤 民恵	1.2級
90	静岡県	古知野 福祉科	483-8331	江南市古知野町高瀬1 0587-56-2508/0587-53-0989	kochino-ko@mail.pref.aichi.jp	小田 博一 嶋田麻知代	○ 1.2級
91	静岡県	桃陵 生活福祉科	474-0025	大府市中央町5-15 0562-46-5351/0562-44-0656	kgladm@toryo-h.aichi-c.ed.jp	斎藤 正晴 河井 典子	1.2級
92	静岡県	明野 福祉科	519-0501	度会郡小俣町明野1481 0596-37-4125/0596-37-4127	なし	佐藤 良一 笠谷 恵理	○ 1級
93	静岡県	上野商業 福祉科	518-0833	上野市緑ヶ丘東町920 0595-21-1900/0595-21-1923	cuenoad@cueno.mie-c.ed.jp	辻井 賢隆 藤尾 香代	○ 1級
94	三重県	みえ夢学園 総合学科 社会福祉・福祉サービス系列	514-0803	津市柳山津興1239 059-226-6317/059-226-6218	hmieyu@hmieyu.mie-c.ed.jp	瀬古 淳二 野呂 朱美	○ 2級
95	滋賀県	長浜 福祉学科	526-0033	長浜市平方町270 0749-62-0896/0749-65-1340	nagako-h@mx.biwa.ne.jp	北川 貢造 水口 順子	○ 1.2級
96	滋賀県	守山女子 生活総合科 生活福祉コース	524-0041	守山市勝部3-9-1 077-582-2019/077-583-2829	morijo φ 1@mx.biwa.ne.jp	小西 義隆 横山 伴子	○ 2級
97	滋賀県	滋賀学園 普通科 福祉コース	527-0003	八日市市建部北町520-1 0748-23-0858/0748-23-6145	hs-offic@newton.ac.jp	清田 剛 岩崎由美子	2級
98	滋賀県	綾羽 介護福祉科	525-0025	草津市西渋川1-18-1 077-563-3435/077-565-5820	ayaha-hs@mx.biwa.ne.jp	柴原 聖嗣 桑原 元則	○ 1.2級
99	東京都	京都聖カタリナ女子 普通科 福祉コース	622-0002	船井郡園部町美園町1-78 0771-62-0163/0771-63-0989	katarina@sweet.ocn.ne.jp	岡本 英輔 松崎 由香	○ 2級
100	東京都	福知山淑徳 総合学科 介護福祉系列	620-0936	福知山市正明寺36-10 0773-22-3763/0773-23-5519	shukutok@mx.nkansai.ne.jp	山口 亨 渡邊みどり	○ 2級

大	101	府	松原	総合学科 地域福祉系列	580-0041	松原市三宅東3-4-1 072-334-8008 / 072-334-8142	matsubara-hs@sbox. pref.osaka.jp	吉村 和彦	○
	102	府	柴島	総合学科 福祉系列	533-0024	大阪市東淀川区柴島1-7-106 06-6323-8351 / 06-6323-8237	inoue@kunijima.osaka-c.ed.jp	加納 明彦 今宿 純男 井上 慎一	3級 ○ ○
阪	103	私	淀之水	福祉科	554-0011	大阪市此花区朝日1-1-9 06-6461-0091 / 06-6465-0336	fukushi@yodonomizu-h.ed.jp	鶴巻 榮二 岡田 裕伸	○ 2級
兵	104	県	日高	福祉科	669-5395	城崎郡日高町岩中1 0796-42-1133 / 0796-42-1648	huidaka-hs-ad@ hyogo-c.ed.jp	尾花 雅一 山崎 由美	○ 1.2級
	105	県	新宮	福祉科	679-4313	揖保郡新宮町新宮27-1 0791-75-0018 / 0791-75-2549	shingu-hs-ad@hyogo-c.ed.jp	野田 昌義 長森 順子	○ 1.2級
庫	106	私	神戸第一	介護福祉コース	651-0058	神戸市中央区葺合町寺ヶ谷1 078-242-4811 / 078-242-5723	なし	岸本 進 重野 緑	○ 2級
	107	私	園田学園	総合コース	661-0012	尼崎市南塚口町1-24-16 06-6428-2242 / 06-6428-0201	kouhou@sonodagakuen.ed.jp	松尾 匡躬 河上 紀子	○ 3級
	108	私	日ノ本学園	福祉コース	679-2151	神崎郡香寺町香呂890 0792-32-5578 / 0792-32-3420	webmaster@hinomoto.ac.jp	池田 武弘 伊藤 睦美	○ 2級
奈	109	県	榛原	家庭科・福祉科	633-0241	宇陀郡榛原町下井足210 0745-82-0525 / 0745-82-7606	haikou@nar-haibara-h.ed.jp	安井 啓夫 松本 美幸	○ 1.2級
良	110	私	天理	第二部	632-8585	天理市袖之内町1260 0743-62-2456 / 0743-62-2456	tenkou21@sta.tenri-u.ac.jp	飯降 成彦 山下 順弘	○ 1.2級
和	111	県	有田中央	福祉系列	643-0021	有田郡吉備町下津野459 0737-52-4340 / 0737-52-6749	postmaster@aridachuo-h. wakayama-c.ed.jp	大藤 茂樹 名原 伸子	○ 2級
山	112	県	益田産業	生活福祉系列	698-0041	益田市高津町3-21-1 0856-22-0642 / 0856-31-1043	masusan@mx.miracle.ne.jp	山田 忠男 坂本 榮子	○ 3級
島	113	県	松江農林	総合学科 福祉サーブス系列	690-8507	松江市乃木福富町51 0852-21-6772 / 0852-21-6796	school@magr.dandan.ed.jp	若槻 士郎 汐見 夏江	○ 3級
	114	私	明誠	福祉科	698-0006	益田市三宅町7-37 0856-22-1052 / 0856-22-8729	meisei@iwami.or.jp	岸 政信 伊藤 圭吾	○ 1.2級
根	115	私	松徳女学院	福祉選択科目	690-0015	松江市上乃木1-14-51 0852-21-5578 / 0852-21-1350	info@shotoku-h.ed.jp	庄司 肇 舟木 雅哉	○ 3級
	116	県	倉敷中央	福祉科	710-0845	倉敷市西富井1384 086-465-2559 / 086-466-2832	kurachuo01@pref.okayama.jp	長尾 藤衛 本多 淳宏	○ 1級
岡	117	県	吉備北陵	普通科 社会福祉系	716-1112	上房郡賀陽町湯山1028 0866-54-1033 / 0866-54-0933	kibihoku@pref.okayama.jp	篠原 孝房 河本 洋子	○ 2級

岡	118	県	福渡	普通科 生活福祉系	709-3111	御津郡建部町福渡425 0867-22-0741 / 0867-22-2380	hukuwatata@pref.okayama.jp	高槻 健 野上 寛子	○ 3級
	119	県	日本原	家政科 福祉類型	708-1204	勝田郡勝北町日本原577 0868-36-5165 / 0868-36-5336	nihonbar@ pref.okayama.jp	笹井 治 高見三千代	○ 2級
	120	市	岡山後楽館	総合学科 健康福祉系列	700-0814	岡山市天神町9-24 086-226-7100 / 086-226-7109	h@korakukan. city-okayama.ed.jp	宇佐見一郎 寺田 貴美	○ 1.2級
	121	私	美作	普通科 介護福祉コース	708-0004	津山市山北500 0868-22-4838 / 0868-24-6171	info@mimasaka.ed.jp	北村 哲志 竹田 吉彦	○ 2級
山	122	私	ベル学園	総合福祉科 介護福祉コース	700-0054	岡山市下伊福西町7-38 086-252-2101 / 086-253-0582	bellgaku@mail.bell-h.ed.jp	高畑 幸彦 五十嵐 武	○ 1級
	123	私	岡山学芸館	普通科 総合コース	704-8502	岡山市西大寺上1-19-19 086-942-3864 / 086-943-8040	info@gakugeikan.ed.jp	森 靖喜 野上 恭子	○ 1級
広	124	県	黒瀬	福祉科	724-0622	賀茂郡黒瀬町乃美尾1 0823-82-2525 / 0823-82-2527	gt4master@kurose-h. hiroshima-c.ed.jp	澤山 義久 黒田 京子	○ 1級
島	125	県	世羅	生活福祉科	722-1193	世羅郡世羅町本郷870 0847-22-1118 / 0847-22-5244	sera-h@hiroshima-c.ed.jp	田邊 康嗣 土生 宏美	○ 2級
	126	県	吉田	生活福祉科 福祉コース	731-0501	高田郡吉田町吉田719-3 0826-42-0031 / 0826-42-0207	yoshikou@orange.con.ne.jp	津田 義則 井上 智恵	○ 2.3級
山	127	県	久賀	福祉科	742-2301	大島郡久賀町4851-2 0820-72-0024 / 0820-72-0096	kuka-h@ysm21.jp	林 秀夫 三輪 敦	○ 1.2級
口	128	私	中村女子	介護福祉科	753-8530	山口市駅通り1-1-1 083-922-0418 / 083-922-8063	nakajyo@ymg.nrban.ne.jp	桂 雄三 岡崎 克子	○ 1級
	129	私	聖光	普通科 社会福祉コース	743-0011	光市光井9-22-1 0833-72-1187 / 0833-72-1308	seikohs@bronze.ocn.ne.jp	東條 博典 秋元 元之	○ 1.2級
徳	130	県	城西	総合学科 介護福祉コース	770-0046	徳島市鮎喰町2-1 088-631-5138 / 088-633-0453	info@josei.tokunet.ed.jp	村山 一行 鎌田かおる	○ 2級
島	131	県	小松島西	福祉科	773-0015	小松島市中田町原の下28-1 08853-2-0129 / 08853-2-5462	kmt@komatsushimanishi-h. ed.jp	鳥羽 俊明 稲村 桂子	○ 2級
香	132	県	三木	総合学科 福祉系列	761-0702	木田郡三木町平木750 087-891-1100 / 087-891-1551	mikth01@kagawa-edu.jp	十河 秀雄 竹内 泰枝	○ ○
川	133	県	飯山	総合学科 福祉サーブス系列	762-0083	綾歌郡飯山町下法寺町664-1 0877-98-2525 / 0877-98-2576	hzn20060@mail. hazan-h.ed.jp	斉藤 賢一 北村 文恵	○ ○
愛	134	媛	新居浜南	総合学科 福祉・サーブス系列	792-0836	新居浜市篠場町1-32 0897-43-6191 / 0897-44-7447	school@nihamaminami-h. kss.ed.jp	清水 博幸 定岡 秀美	○ 2級

愛媛	135	北条	総合学科 生活福祉系列	799-2493	北条市江600-1 089-993-0333/089-993-0429	hojipro@esnet.ed.jp	豊田 遼雄 福山 陸枝	○ 2級
	136	川之石	総合学科 福祉サーブス系列	796-0201	西宇和郡保内町川之石1-112 0894-36-0550/0894-36-1994	kwih-ad@esnet.ed.jp	永井 博 谷田美穂子	○ 2級
	⑬	松山城南 福祉科		790-8550	松山市北久米815 089-976-4343/089-976-4348	jonan@ matsuyamajonan-h.ed.jp	福地 勝哉 中田千栄子	○ 2.3級
高	138	城山	普通科 福祉教養コース	781-5310	香美郡赤岡町1612 0887-55-2126/0887-55-0170	shiroyama-h@kochinet.ed.jp	吉岡 成 野中 昭良	○ 3級
知	⑭	室戸	総合学科 生活福祉系列	781-7102	室戸市室津221 0887-22-1155/0887-22-3891	muroto-h@kochinet.ed.jp	時久 公郎 松山 伸美	○ 2.3級
	140	三井	普通科 福祉教養コース	838-0122	小郡市松崎650 0942-72-2161/0942-72-9064	mii-h-teach@ogori-mii.ed.jp	高山 史郎 内田 洋子	○ 2級
福	⑮	久留米筑水 社会福祉科		839-0817	久留米市山川町1493 0942-43-0461/0942-45-0143	chikusui@siren.ocn.ne.jp	牛嶋 洋二 浦田 亜希	○ 2級
	⑯	黒木	普通科 福祉・看護コース	834-1216	八女郡黒木町大字桑原10-2 0943-42-1150/0943-42-3791	kuroki@coral.ocn.ne.jp	仁田原秀明 柿永 恵子	○ 2級
	⑰	大牟田南	普通科 福祉類型	836-0872	大牟田市黄金町1-26 0944-53-3510/0944-52-2617	dainan-zimui@ deluxe.ocn.ne.jp	右田 稔 吉田 政枝	○ 2級
岡	144	福岡女子 保育福祉科		819-0013	福岡市西区愛宕浜3-2-2 092-881-7344/092-883-4227	fgh@jcom.home.ne.jp	境 敏光 金子 綾子	○ 2級
	⑱	杉森女子 福祉科		832-0046	柳川市大字奥州町3 0944-72-5216/0944-72-5218	sugimori@mutugoro.or.jp	柏原 正憲 森 茂樹	○ 2級
	146	慶成	人間科学科 介護福祉コース	803-0854	北九州市小倉北区皿山町15-1 093-561-1331/093-561-4844	keisei-1@wonder.ocn.ne.jp	田所 正清 竹並 正宏	○ 2級
	147	沖学園	社会総合学科 介護福祉コース	816-0095	福岡市博多区竹下2-1-33 092-431-1868/092-441-3274	webmaster@okigakuen.ed.jp	沖 隆邦 藤井 勝之	○ 2級
	148	大和青藍 介護福祉科		822-0025	直方市日吉町10-12 0949-22-0533/0949-22-0535	mas@yamato-gakuen.ac.jp	川原 克彦 梶崎 孝徳	○ 2級
	149	折尾愛真 普通科 福祉コース		807-0861	北九州市八幡西区堀川町12-10 093-602-2100/093-692-5690	oriyo-a@nyairnet.ne.jp	増田 仰 小川 恵子	○ 2級
	⑳	福智 介護福祉科		825-0002	田川市大字伊田3934 0947-42-4711/0947-44-7289	info@fukukuchi-h.ed.jp	荒瀬 昭彦 東 和磨	○ 2級
	151	久留米学園 総合学科 介護福祉系列		830-0032	久留米市東町272-4 0942-34-4535/0942-33-5222	habi@gakuen.ac.jp	小西 高昭 日比 眞一	○ 2級

佐	152	神埼清明 総合学科 生活福祉系列		842-0012	神埼郡神埼町大字横武2 0952-52-3191/0952-51-1017	edq10021@saga-ed.go.jp	山田 一彦 津村タマキ	○ 2級
	153	鹿島実業 生活経営科 生活福祉コース		849-1311	鹿島市大字高津原539 09546-3-3126/09546-3-9007	edq10038@saga-ed.go.jp	梶原 哲夫 大串 靖子	○ 2級
賀	154	牛津 生活経営科 生活福祉類型		849-0303	小城郡牛津津町津274 0952-66-1811/0952-51-5008	edq10009@saga-ed.go.jp	中山 暉英 田中 直美	○ 2級
	⑳	北陵 生活文化科 介護福祉コース		849-0921	佐賀市高木瀬西3-7-1 0952-30-8676/0952-33-5524	info@sagachuo.ac.jp	久原 辰郎 石戸 秀昭	○ 2級
長	156	大村城南 総合学科 福祉生活系列		856-0835	大村市久原1-416 0957-54-3121/0957-27-3056	jonan-h@jonan-h. nagasaki-e.ed.jp	宇田川 決 市丸佐緒里	○ 2級
崎	157	玉木女子 福祉科		850-0822	長崎市愛宕1-21-6 095-826-6322/095-828-6837	koukou@tamaki.ac.jp	岩橋 弘 澤田 忠和	○ 2級
	158	八代農業 福祉教養科		869-4201	八代郡鏡町大字鏡村129 0965-52-0076/0965-52-5048	yatsushiro-n@bears.ed.jp	梶原蘇實夫 平江美保子	○ 2級
熊	159	多良木 普通科 福祉教養コース		868-0501	球磨郡多良木町多良木1212 0966-42-2102/0966-49-1022	taragihs@hitoyoshi.net	米村 邦昭 瀬音 博美	○ 3級
	160	阿蘇清峰 社会福祉科		869-2612	阿蘇郡一の宮町大字宮地4131 0967-22-0045/0967-22-5161	asoseihou@bears.ed.jp	郷 勝征 中山 美宇	○ 1.2級
	161	甲佐 普通科 福祉教養コース		861-4606	上益城郡甲佐町横田327 096-234-0041/096-234-4425	kousash@edu-c. pref.kumamoto.jp	松本 友喜 廣瀬加代子	○ 3級
	㉑	菊池女子 社会福祉科		861-1331	菊池市大字隈府1081 0968-25-3032/0968-25-3180	kikujo39@isis.ocn.ne.jp	荒木 修 中村トモエ	○ 1級
本	163	城北 社会福祉科		861-0598	山鹿市志々岐798 0968-44-8111/0968-44-0747	koukou@po.infobears.ne.jp	松浦シズエ 馬場 誠也	○ ○
	164	熊本フェリス学院 医療福祉科		861-4106	熊本市南高江7-3-1 096-357-7151/096-358-3044	faith@sl.kcn-tv.ne.jp	福井 健彌 吉村 正一	○ 1.2級
	165	有明 福祉科		864-0032	荒尾市増永2200 0968-63-0545/0968-64-1366	ariakehs@coral.ocn.ne.jp	片山 盛雄 村田太佳子	○ 2級
大	166	山香農業 生活科学科 福祉コース		879-1306	速見郡山香町大字広瀬4706 0977-75-1166/0977-75-1165	hinf6009@it.ed.jp	伊藤 忠重 藤内 節子	○ 2級
	㉒	野津 福祉科		875-0201	大野郡野津町大字野津市537-1 0974-32-2031/0974-32-2119	hmas6038@oit.ed.jp	田原 靖憲 南 富美子	○ 2級
分	168	耶馬溪 普通科 生活福祉コース		871-0404	下毛郡耶馬溪町大字戸原1663-1 0979-54-2011/0979-54-2519	なし	三浦 豊 児玉美紀子	○ 3級

大	169	私	楊志館 福祉科	870-0838	大分市桜ヶ丘7-8 097-543-6711/097-543-4516	yoshikan@oec-net.or.jp	原尻 正信	○
	170	私	福德学院 保育福祉科	870-0883	大分市大字永興550 097-544-3551/097-544-5883	fghs2908@oitaweb.ne.jp	佐々木 修 首藤 久登	2級 2級
	171	私	大分東明 商業科 商業・介護福祉コース	870-8658	大分市千代町2-4-4 097-535-0201/097-533-2660	h-toumei@po.d_b.ne.jp	鈴木 貴久 古川 成門	○ 2級
分	172	私	昭和学園 福祉科	877-0082	日田市日ノ出町14 0973-23-8737/0973-22-7129	showa@fat.coara.or.jp	永松 克興	○
	⑦	県	妻 福祉生活科	881-0003	西都市大字右松2330 0983-43-0005/0983-43-0005	tumako@abeam.ocn.ne.jp	安部 里美	2級
宮	⑦	県	日南農林 福祉生活科	889-3202	南那珂郡南郷町大字中村甲3543 0987-64-1177/0987-64-1947	6008ha@miyazaki-c.ed.jp	猪崎 俊二 濱砂美穂子	○ 1.2.3級
	⑦	県	門川農業 福祉生活科	889-0611	東臼杵郡門川町大字門川尾末2680 0982-63-1336/0982-63-5194	なし	押川 尚生	○
	⑦	県	高原 福祉生活科	889-4411	西諸県郡高原町大字広原4981-2 0984-42-1010/0984-42-1270	6044hc@miyazaki-c.ed.jp	井戸川浜子	○ 1.2.3級
崎	177	私	都城 介護福祉科	885-8502	都城市箕原町7916 0986-23-2477/0986-26-5220	kmhs@kubogakuem.ac.jp	池上 和文	○
	178	私	日章学園 福祉科	880-0125	宮崎市広原836 0985-39-1321/0985-39-1324	ngh@nissho.ac.jp	高田 睦子	○ 1.2級
	⑦	県	加世田常潤 生活福祉科	897-0002	加世田市武田14863 0993-53-3600/0993-53-3601	なし	橋口 哲夫	○
鹿	⑧	県	宮之城農業 福祉科	895-1811	薩摩郡宮之城町虎居1900 0996-53-0020/0996-53-2718	miyanoukou@po.minc.ne.jp	石川加奈恵	○ 1.2級
	181	私	加治木女子 医療福祉科	899-5241	始良郡加治木町木田5348 0995-63-3001/0995-63-3002	kajiki-ghs-jimu@ gh-kagoshima.ac.jp	竹之内秀文	○
児	182	私	鳳凰 医療福祉科	897-1121	加世田市唐仁原1202 0993-53-3633/0993-53-7974	info@hoooh.ed.jp	相葉 春信	○ 1.2級
	183	私	出水中央 医療福祉科	899-0213	出水市西出水町448 0996-62-0500/0996-62-6677	kikaku@izumi.ac.jp	安藤 忠次	○
島	184	私	神科学園高等部 医療福祉科	896-8686	串木町市下名4460 0996-32-3232/0996-32-2990	angel@kamimura.ac.jp	下別府 透	○ 1.2級
	185	私	樟南 介護福祉科	890-0044	鹿児島市常磐町440-6 099-281-2900/099-281-2522	shonank@po.synapse.ne.jp	諸木 逸郎	○

鹿	186	私	鹿児島城西 社会福祉科	899-2593	日置郡伊集院町清藤1938 099-273-1234/099-273-1651	kjh@nissho.ac.jp	田ノ上紀男	○ 1.2級
児	187	私	尚志館 医療福祉科	899-7104	曾於郡志布志町安楽6200 0994-72-1318/0994-72-1319	syoshikan@ pol2.synapse.ne.jp	上釜 洋行	○
島	188	私	鹿児島情報 医療福祉科	891-0141	鹿児島市谷山中央2-4118 099-268-3101/099-266-1851	joho@harada-gakuen.com	林 敬二郎	○ 1級
沖	⑧	県	陽明 介護福祉科	901-2113	浦添市字大平488 098-879-3062/098-879-9520	kaifuku@youmei-h. okinawa2.schoolnet.gr.jp	中川 充	○
縄	⑨	県	中部農林 福祉科	904-2213	具志川市字田場1570 098-973-3578/098-973-3357	fukushika555@hotmail.com	原田 理幸	○
							福留 三良	○ 1級
							仲里 一彦	○
							比嘉 加代	○ 2級
							上原 勲	○
							伊禮 幸子	○ 2.3級

あ と が き

今年度主管校である茨城県立古河第二高等学校をはじめ、研究発表されました先生方並びに関東ブロック各校の先生方のご協力により、ここに茨城大会報告書（通巻第8号）を発刊することができました。

初めての事務局という大役に戸惑うばかりではありましたが、全国の皆様のご指導・ご協力により終盤を迎えることができましたことを、職員一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(事務局)

平成15年度全国大会予告

と き 平成15年10月29日（水）・第2回理事会及び
学科主任代表者会議
平成15年10月30日（木）・大会第1日目
平成15年10月31日（金）・大会第2日目
ところ 大分県大野郡野津町大字野津市537-1
主管校 大分県立野津高等学校

平成15年度第1回理事会及び学科主任代表者会議予告

と き 平成15年5月28日（水）
10時より理事会（家庭部会事務局2階）
◇ 学科主任代表者会議（家庭部会事務局3階）
13時より合同会議
（日本私立学校振興・共済事業団体内502号室）
会場は、いずれもJR飯田橋駅下車

事 務 局

群馬県立吾妻高等学校
〒377-0801 群馬県吾妻郡吾妻町大字原町192
TEL 0279-68-2334
FAX 0279-68-2747